
魔法先生ネギま！ & BAMBOO BLADE 逃走中

D-JUN

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法先生ネギま！&BAMBOO BLADE逃走中

【Nコード】

N5092P

【作者名】

D-JUN

【あらすじ】

魔法先生ネギま！とBAMBOO BLADEのキャラがとある国に集まった。再びゲームが始まる・・・

キャラ紹介（前書き）

登場キャラを紹介します！
今回も目標金額を載せます！

キャラ紹介

魔法先生ネギま！メンバー

相坂さよ

目標金額 20万円

明石裕奈

目標金額 96万円

浅倉和美

目標金額 96万円

綾瀬夕映

目標金額 30万円

和泉亜子

目標金額 60万円

大河内アキラ

目標金額 50万円

柿崎美砂

目標金額 96万円

神楽坂明日菜

目標金額 96万円

春日美空

目標金額 9 6 万円

絡繰茶々丸

目標金額 2 0 万円

釘宮円

目標金額 9 6 万円

古菲

目標金額 9 6 万円

近衛木乃香

目標金額 4 0 万円

早乙女ハルナ

目標金額 9 6 万円

桜咲刹那

目標金額 2 0 万円

佐々木まき絵

目標金額 5 0 万円

ネギ・スプリングフィールド

目標金額 2 0 万円

B A M B O O B L A D E メンバー

川添珠姫

目標金額 9 6 万円

千葉紀梨乃

目標金額 96万円

桑原鞘子

目標金額 96万円

宮崎都

目標金額 96万円

東聡莉

目標金額 96万円

中田勇次

目標金額 50万円

栄花段十郎

目標金額 96万円

以上24名で

逃走中を行います！

キャラ紹介（後書き）

次はエリアの詳細です。

エリア詳細／おとぎの国（前書き）

今回のエリアです。

エリア詳細／おとぎの国

逃走の舞台はおとぎの国

おとぎ話の登場人物が

生活している国で

そびえたつお城と城下町

その周りには森が広がる。

お城には広い庭園、

宝物庫が存在する。

そして、

森にはおとぎ話の登場人物の家が何件が存在する。

この国には

赤ずきんちゃん

白雪姫

シンデレラが住んでいる。

もちろん、

その人物に関係する者も

住んでいる。

この国の南には門があり、

門番が2人おり侵入者を排除する。

そして、この門の扉に囲まれた所が逃走のエリアとなる。

エリア詳細／おとぎの国／（後書き）

いよいよゲームが始まる・・・

オープニングゲーム(1)(前書き)

恐怖のゲーム・・・
再び・・・

オープニングゲーム(1)

ゲーム前、

とある場所に集められた

24人の逃走者たち・・・

恐怖の逃走劇がいま始まる・・・

「これよりゲームを始める」

不気味なアナウンスが流れる。逃走者に緊張が走る。

「君たちの前にある4体のハンターはボックスの中に閉じ込められている・・・」

「目の前にある色分けされた鎖は全部で24本・・・そのうち1本だけがボックスの扉を開放するハズレの鎖・・・」

「それを引くと4体のハンターが解き放たれゲームがスタートする・・・」

ハンターまでは20m

逃走者は1人ずつ鎖を引き抜かなければならない。

ハズレを引けば

ハンターが目の中の逃走者に襲い掛かる。

さらに、

24本の鎖のうち

5本の鎖にはドクロマークがついており誰かが

この鎖を引くことに逃走者たちは2mずつ前進しなければならない・

鎖を引く順番はくじ引きにより決定した。

刹那「…最後…」

明日菜「15…微妙ね…」

段十郎「23！」

都「22番ダン君の前ね…」

運まかせだ・・・

最初に鎖を引くのは・・・
和泉亜子・・・

亜子「いやあ、怖い…」

裕奈「亜子ー！何色？」

亜子「……白…」

まき絵「なんで？」

亜子「…1番大丈夫そうやから…」

ハルナ「そう思わせてってあるよね…」

亜子「引くよ」

クリアか・・・

ハンター放出か・・・

亜子「引きます!」

ジャラッ!

亜子「…やった」!

さよ「見てるこっちも怖いです」

裕奈「亜子、抜けたか」

和泉亜子 クリア

残る鎖は23本

2番目に鎖を引くのは・・・

早乙女ハルナ・・・

ハルナ「うわ、緊張するなあ」

明日菜「パルは引かないような気がする…」

夕映「同感です…」

聡莉「そうなんですか?」

勇次「それじゃあ、早乙女さん！何色ですか？」

ハルナ「ゼブラ试试看！」

明日菜「！あからさまに怪しいじゃないその色！」

ハルナ「裏の裏ってやつよ。」

クリアか・・・

ハンター放出か・・・

ハルナ「行くよ！」

ジャラッ！

ハルナ「よしっ！」

和美「うわゝ、これはかなりスリルあるよ。」

鞘子「ドキドキがとまらない。」

早乙女ハルナ クリア

残る鎖は22本

3番目に鎖を引くのは・・・
相坂さよ・・・

さよ「・・・怖いです」

幽霊ですが、参加できるようにしたそうです。

和美「さよちゃん！何色？」

さよ「私は……空色で……」

和美「なんで？」

さよ「空が……きれいだから……」

木乃香「のほほんとするなあ」

さよ「そ、それじゃあ、引きます！」

クリアか……

ハンター放出か……

さよ「いきます！えい！」

ジャラッ！

さよ「……きゃっ！」

ずでっ

こけた……

和美「さよちゃん大丈夫？」

さよ「……大丈夫です……」

和美「さよちゃんもクリアか…」

相坂さよ クリア

残る鎖は21本

4番目に鎖を引くのは・・・

大河内アキラ・・・

アキラ「…間近でみたら、本当に怖い…」

裕奈「アキラー！何色？」

アキラ「…私の好きな青にする…」

美砂「意外にこれかも…」

円「怖い怖い…」

アキラ「…引くよ！」

クリアか・・・

ハンター放出か・・・

アキラ「引きます！」

ジャラッ！

アキラ「やった！…あっ！」

鎖にはドクロマーク！

裕奈「ええ、勘弁してよ！」

アキラ「ごめんなさい！」

大河内アキラ クリア

しかし、

残る逃走者は2m前進・・・

残る鎖は20本

5番目に鎖を引くのは・・・

東聡莉・・・

聡莉「え」と・・・

都「引きそうな気がする・・・」

紀梨乃「否定できないねえ」

鞘子「逃げる準備を・・・」

聡莉「ひどいです！」

勇次「何色引きますか！」

聡莉「…緑色で・・・」

勇次「なんですか？」

聡莉「勘です。」

都「逃げる準備をしましょう！」

聡莉「ひどいです！」

クリアか・・・

ハンター放出か・・・

聡莉「いきます！」

ジャラッ！

聡莉「やった！きゃっ！」

ずでっ

こけた・・・

（2人目）

珠姫「…また、こけた。」

都「本当にドジ…」

聡莉「痛い…」

東聡莉 クリア

その後、

6番目の佐々木まき絵が

ピンク色の鎖を引いてクリア・・・

しかし、

ドクロマークがあつたため残る逃走者は2m前進・・・

続いて、

7番目の中田勇次が

灰色の鎖を引いてクリア・・・

8番目の釘宮円が

茶色の鎖を引いてクリア・・・

9番目の柿崎美砂が

銀色の鎖を引いてクリア・・・

しかし、

ドクロマークがあつたため残る逃走者は2m前進・・・

10番目の春日美空が

朱色の鎖を引いてクリア・・・

しかし、

ドクロマークがあつたため残る逃走者は2m前進・・・

11番目の川添珠姫が

赤色の鎖を引いてクリア・・・

そして、

12番目に鎖を引くのは・・・

近衛木乃香・・・

木乃香「うーん、まだいっぱいあるなあ」

刹那「お嬢様、慎重に…慎重にお選びください…」

木乃香「ほなら…これ…藍色」

刹那「な、なぜですか？」

木乃香「なんとなく…これにせなあかん気がしたんよ…いくよ」

クリアか…

ハンター放出か…

木乃香「いくよー！えい！」

ジャラッ！

木乃香「ほら、大丈夫やった…」

刹那「良かったです！」

近衛木乃香 クリア

残る鎖は半分の12本

オープニングゲームは
まだ終わらない…

オープニングゲーム(1)(後書き)

鎖はあと12本・・・

ハズレを引くのは誰だ・・・

木乃香が藍色を選んだのは

なかのひとに関係してるのかな？

オープニングゲーム(2) (前書き)

半分の鎖が無くなった・・・
ハズレの鎖を引くのは誰だ・・・

オープニングゲーム(2)

残る鎖は12本

13番目に鎖を引くのは・・・

綾瀬夕映・・・

夕映「…どれを選んで、危険です。半分の鎖が無くなったわけですから…」

裕奈「で、何色？」

夕映「…私も裏の裏をかい、て虎色にするです…」

明日菜「また怪しいやつ？」

夕映「…おそらく大丈夫なはずです…」

クリアか・・・

ハンター放出か・・・

夕映「いくです！」

ジャラッ！

夕映「……良かったです…」

明日菜「えっ、まだなの？」

ネギ「こんなにかかるんですか？」

綾瀬夕映 クリア

残る鎖は11本

14番目に鎖を引くのは・・・

千葉紀梨乃・・・

紀梨乃「うん、11分の1だね・・・」

鞘子「もうヤバイはずなのに・・・」

茶々丸「…だれもひいてません・・・」

和美「もう来るでしょ。」

紀梨乃「よしっ、黄色にしよう。黄色引くよー！」

裕奈「もう引くんですか？」

紀梨乃「うん、引く！」

クリアか・・・

ハンター放出か・・・

紀梨乃「せゝ…のっ！」

ジャラッ！

紀梨乃「セーフ！」

鞘子「うそー！」

都「なんで、だれも引かないの？」

千葉紀梨乃 クリア

残る鎖は10本・・・

15番目に鎖を引くのは・・・

神楽坂明日菜・・・

明日菜「よしっ！」

裕奈「出た！バカレッド！」

明日菜「誰がバカレッドよー！」

ネギ「明日菜さん落ち着いてください。」

和美「明日菜ー！何色？」

明日菜「え？じゃあ……あつ、オレンジ！」

裕奈「なんで？」

明日菜「オレンジは大丈夫じゃない？」

和美「絶対とは言いきれないないよ!」

明日菜「大丈夫よっ!」

クリアか・・・

ハンター放出か・・・

明日菜「いくよ!それっ!」

ジャラッ!

ガコン!!!!

明日菜「!うそー!?!」

全員「うわーーーー!!!!!!」

START

ハンターが放出された・・・

裕奈「ハンター来た!」

明日菜「ヤバイって!」

鎖を引いた明日菜が

1人の逃走者を追い抜き

ハンターの標的が変わった!

ピーーーーー

代わりにハンターが
視界に捕らえたのは・・・

段十郎「はあっ…はあっ」

段十郎だ・・・

段十郎「あっ！！」

ボワン

栄花段十郎確保

残り23人

残り時間79分52秒

段十郎「…うそだろー！！」

ピリリッピリリッピリリッ

情報はメールで通知される

勇次「…確保！ダンくん…えっ！？」

ハルナ「男子3人のうちの1人捕まっちゃった。」

都「……ハンターめ（怒）」

裕奈「明日菜無事ってこと？」

珠姫「…もう始まつてる……」

アキラ「始まつた！」

ハンターから逃げた時間に応じて賞金を獲得できる・・・
それが・・・

run for money

逃走中

今回の逃走劇の舞台は
おとぎの国・・・

ほぼ円形のエリアの
中央には大きな城、
その周りにはおとぎ話の登場人物たちが住む町、
その外側には広大な森が
存在し、

南にある門の壁に囲まれている。

広さは東京ドームおよそ4個分。

エリア内の建物は
お城の1階部分のみ
入ることができる。

この中を24人の逃走者は
4体のハンターから逃げまわる。

亜子「えっ！もう1万円！？」

美空「どんどん増えてる。ヤバイ、すごい。」

賞金は1秒で200円ずつ上昇。

80分間逃げ切れれば何人でも96万円を獲得できる。

円「…自首はしない！絶対！」

更に、

このゲームは自首もできる。

エリア内の教会の

懺悔室に入り、

神父に自首を申告すれば、

その時点の賞金を獲得できゲームからリタイアとなる。

ただし、ハンターに捕まれば賞金は0。

彼らは脅威のスピードと

持久力を併せ持つ。

逃げ切るのは容易ではない！

森に隠れる夕映・・・

夕映「あまり動いてはダメです…こういう場所はじっとしてた方が安全です。」

冷静な判断で状況を把握し
最善の策を考える・・・

城下町に隠れるまき絵・・・

まき絵「人がいっぱいいるし、ここなら平気かな？」

町の人にまぎれる作戦のようだ・・・

その近くに・・・

さよ「…怖いです…」

さよだ・・・

さよ「どこ行っても怖いです…」

かなり怖がつている・・・

そんなさよの近くにハンター・・・

さよ「どこかに隠れたい…」

ハンターはまだ気付いていない・・・

ピーーーーー

見つかった・・・

さよ「怖い…！来た！イヤーーー！」

まき絵「！来た！？」

まき絵もつられて逃げる！

さよ「イヤッ！イヤァッ！」

ボワン

相坂さよ確保

残り22人

残り時間75分07秒

まき絵「びっくりした！誰だったんだろう？」

さよ「…怖かった…速いですって…」

ピリッピリッピリッ

裕奈「！なに！？メール？」

和美「さよちゃん捕まった！」

鞘子「早い…もう捕まった人が出た…」

森の道を歩く木乃香…

木乃香「ここはどやる？」

そこに…

美空「…木乃香？」

美空だ…

木乃香「美空ちゃん。」

美空「木乃香、あっちどう？」

木乃香「大丈夫やったけど…」

美空「そう？メール見た？」

そんな2人の近くに・・・
ハンター・・・

美空「もう2人捕まったじゃん。」

木乃香「そやなあ」

美空「そやなあって…！ハンター来た！」

木乃香「！えっ！？」

ピーーーーー

ハンターが視界に
捕らえたのは・・・

木乃香「来たっ！速い！」

木乃香だ・・・

木乃香「あかん！あかん！キャッ！！」
ボワン

近衛木乃香確保

残り21人

残り時間7分52秒

美空「やばかった！…木乃香は？…捕まった？」

木乃香「あゝん、捕まってもたゝ。はいゝ…」

ピリッピリッピリッ

明日菜「木乃香も確保！？はやすぎない？」

刹那「……お嬢様——っ！」

そのころ、

おとぎの国にある異変が
起こっていた・・・

オープニングゲーム(2) (後書き)

早くも3人の逃走者が

捕まった・・・

そして、

おとぎの国に事件が起こる・・・

く赤ずきんくおとぎの国の事件く（前書き）

おとぎの国に起こる

事件とは？

く赤ずきんくおとぎの国の事件く

ある国の

森の中の1軒の家に

病気のおばあさんが

おりました。

そこに、

コンッコンッ

戸を叩く音が・・・

??「おばあちゃん。おかげんはいかが？」

キィッ

おばあちゃん「…赤ずきんじゃないか…」

赤ずきん「おばあちゃん、お久しぶりですう。」

訪ねてきたのは、

赤ずきんでした。

赤ずきん「お見舞いに来たですう。」

おばあちゃん「まあまあ、ありがとう。」

赤ずきんはおばあちゃんの家に入りました。

しかし、

それを見ていたのは・・・

魔女・・・

魔女「赤ずきんか…なら、あいつらだな…」

森の中にいたのは・・・

狼A「あゝ、腹へったなあ…」

狼たちがいました。

狼B「飯食いに町に行くか。」

狼C「そうだな…」

魔女「待ちなさい…」

狼B「んっ？あつ、魔女！」

狼A「何のようだよ！」

魔女「お腹がすいたのだろう…なら、赤ずきんのおばあさんの家に行くといい。」

狼B「えっ？あそこは…」

狼C「前に迷惑かけたし…なあ…」

狼たちは前に

腹ペコになったとき

赤ずきんたちに

迷惑をかけてしまい

今もまだ気にしていました。

魔女「ふふっ、そうか。だが…」

魔女の目が妖しく光った・・・

魔女「行ってもらうぞ…」

狼たち「……アオーン!!」

魔女「行け!狼ども!」

魔女がそういうと

狼たちはのそのそと

おばあさんの家に向かいました。

魔女「ふふっ、あとは…」

別の場所には

獵師A「今日はこのへんにするか…」

獵師たちがいました。

獵師B「ああ。」

獵師C「じゃあ、準備を…」

すると、

ジャラッ！ジャラッ！ジャラッ！

獵師B「！！」

獵師C「な、なに！？」

獵師A「！なんだ！？」

獵師たちが鎖で
縛られてしまいました！

魔女「お前たちがいては、私の計画が危ないからな……」

獵師A「！魔女！」

魔女「そこでおとなしくしてもらっぞ……」

獵師B「待て！」

獵師C「何を企んでる！」

魔女は何も言わず去ってしまいました……

そして、

おばあさんの家の前には
いつの間にか

3つのハンターボックスが設置されていた・・・

く赤ずきんくおとぎの国の事件く（後書き）

操られた狼たち・・・

身動きができない猟師たち・・・

そして、

おばあさんの家の前に設置されたハンターボックスの意味とは？

MISSION 1 (1) (前書き)

ミッションが始まる・・・

MISSION 1 (1)

ピリッピリッピリッ

明日菜「！なに！？なに！？」

メールだ・・・

裕奈「来た！ミッションだ。」

美空「『森のおばあさんの家に3つのハンターボックスが設置された。』」

勇次「『そのおばあさんの家に3匹の狼たちが向かっている。』えっ？」

円「『残り60分になると狼1匹ごとにハンターボックスを1つ開けてしまう。』最大3体増えるってこと？」

鞘子「『阻止するには、森の中にいる猟師に狼を捕まえてもらわないといけない。』」

まき絵「『しかし、猟師は鎖で縛られているため、自分たちがもつ鍵で鎖を解かなければいけない。』…この鍵？」

美砂「『ただし、鎖の色と同じ色の鍵じゃないと鎖は解けない。気をつけたまえ。』」

MISSION 1

ハンター放出を阻止せよ！

3匹の狼が魔女に操られ
おばあさんの家に向かう。
おばあさんの家の前には

3つのハンターボックスが設置されており、
残り60分になると、

狼1匹で1つのボックスを開放してしまい、
最大3体のハンターが
エリアに放出されてしまう。

これを阻止するには、

森の中にいる鎖で身動きがとれない猟師に捕まえてもらうしかない。

ただし、鎖は逃走者の持つ鍵で解けるが、
鍵と同じ色の鎖しか解くことができない。

なお、猟師は

おばあさんの家の
裏の方にいるが、

逃走者はそのことを
知らない・・・

逃走者が持つ鍵の色は
このようになっていて・・・

赤

相坂さよ（確保）

綾瀬夕映

柿崎美砂

絡繰茶々丸

近衛木乃香（確保）

佐々木まき絵

千葉紀梨乃

東聡莉

青

明石裕奈

和泉亜子

神楽坂明日菜

釘宮円

早乙女ハルナ

ネギ・スプリングフィールド

桑原鞘子

中田勇次

黄色

朝倉和美

大河内アキラ

春日美空

古菲

桜咲刹那

川添珠姫

宮崎都

栄花段十郎（確保）

現在残りおよそ72分
およそ12分後に

ボックスの扉が
開放されてしまう。

美空「…誰かやるでしょ。」

和美「…誰かやるって」

鞘子「行きたくないな」

美砂「絶対行かない！」

ミッションに行くか行かないかは逃走者の自由だ・・・

明日菜「行こう！」

勇次「7体になったら厳しいし…どこかな？」

裕奈「やらないと！」

紀梨乃「獵師ってどこかな？」

ネギ「行かないと、危ないですね。」

円「7体になったらシャレにならないし。」

刹那「…お嬢様の分までやります。」

ミッションに向かうのは、

裕奈、明日菜、円、刹那、ネギ、紀梨乃、勇次の7人。

残り60分までに

獵師を助けることは

出来るのか？

円「…獵師ってどこにいるの？」

獵師を探す円・・・

円「森が結構広い…！ハンターだ！」

獵師ではなくハンターを見つけた円・・・

しかし、ハンターは

気付いていない・・・

円「…ヤバイ。」

ピーーーーー

気付かれた・・・

円「！ヤバイ！来た！」

ピーーーーー

逃げても追い続けるハンター・・・

円「ヤバイーッ！イヤッ！」

ボワン

釘宮円確保

残り20人

残り時間70分41秒

円「悔しいっ！速すぎだって、ハンター！」

美砂「！円が捕まった！」

裕奈「くぎみー、ミッション向かって捕まったのかな？」

ミッションは危険と

隣り合わせ・・・

動けばハンターに

見つかる可能性も高くなる・・・

ミッションをクリア出来るのか・・・

MISSION 1 (1) (後書き)

残り20人・・・

クリアすることができるのか？

MISSION 1 (2) (前書き)

ハンターの追加を
阻止できるのか・・・

MISSION 1 (2)

森の中を彷徨う刹那・・・

刹那「…獵師はいつたいどこに…」

刹那が現在いる場所は
獵師がいるところの近く・・・
気づくのか・・・

亜子「…ミッションでないしょ…」

ミッションに行くかどうか悩む亜子・・・

彼女のいる場所と

獵師のいる場所は正反対だ・・・

古菲「…！わっ！？」

まき絵「！びつくりした！！」

古菲「それはこっちのセリフアル。」

森の中で出会ったバカピンクとバカイエロー・・・

まき絵「ミッションどうする？」

古菲「近くだつたら行くアル。」

そんな2人の近くに
ハンター・・・

ピーーーーー

見つかった・・・

まき絵「でも、場所！ハンターだ！」

古菲「来たアル！！」

二手に分かれて逃げる2人・・・
ハンターの視界には・・・

まき絵「！こつち来たーっ！！」

まき絵だ・・・

まき絵「速い！…キャッ！」
ボワン

佐々木まき絵確保

残り19人

残り時間69分57秒

古菲「まき絵は？どうなった？」

まき絵「悔しいよっ…」

アキラ「…また？まき絵！？」

亜子「まき絵が！？捕まった！？」

古菲「やっぱり捕まったアル…」

美砂「ミッションはまずいつて…すぐ捕まるよ…」

鞘子「…ハンターいない…よね…」

城下町に隠れる鞘子・・・
自分の身が最優先だ・・・

聡莉「…行こうかな…行った方がいいよね…」

ミッション参加を決意した聡莉・・・

聡莉「…ここは城下町……だけど、城下町のどこか……わからない
(泣)」

先がおもいやられる・・・

刹那「…むっ、あれは？」

何かを見つけた刹那・・・

刹那「！獵師か！？」

獵師だ・・・

刹那「見つけ…………龍宮…楓…超…？」

獵師A「その人、これを解いてくれないか？」

刹那「…いや、龍宮なにを…」

獵師B「こつちを解いてくだらないか？」

刹那「楓もなにを…」

獵師C「いや、こつちを…」

刹那「…超…………まで…………」

獵師B「…さつきから…龍宮とか楓とか…誰のことですか？」

刹那「…………あなた方が…獵師…ですか？」

獵師C「そうです。」

刹那「鍵を持っているが、黄色の鎖しか解けない…黄色の鎖は？」

獵師C「わたしね。」

刹那「では、いま鎖を…」

カチャッ
ジャラッ！

黄色の鎖 解錠

猟師C「これで動ける！」

刹那「あ、それで、いま3匹の狼が森のおばあさんの家に向かって
いるんです。」

猟師A「なにっ!？」

猟師B「あいつら、また？」

猟師C「よし、私たちにまかせろ。といっても、網鉄砲一発しか使
えないから、1匹しか捕らえられないが…」

刹那「充分です。お願いします！」

猟師C「まかせろ！」

刹那「……よしっ！」

刹那が猟師1人を自由にしたため、狼を捕まえに行く！

猟師C「狼よ！くらえっ！」

パンツ

狼C「アオツ!？」

狼が網に絡まったため

前に進めなくなった！

ハンター1体封印・・・

残りは2つ・・・

刹那「…………ふう。あとは皆を信じよう」

獵師B「…助け…来るかな…」

獵師A「…どうかな…」

ミッションに挑む勇次・・・

勇次「…………森が広すぎる。獵師はどこにいるんだろう。」

まだ獵師を見つけてない・・・
そこに・・・

勇次「！…ハンターだ…」

獵師ではなく、

ハンター見つけてしまった・・・

勇次「……………いったか…」

ハンターに気づけなかったようだ・・・

勇次「危ない危ない…気をつけないと…」

ハンターは現在4体・・・
ミッション終了まで
あと7分・・・
クリアできるのか・・・

MISSION 1 (2) (後書き)

赤の鎖と青の鎖を解錠してミッションをクリアする者は現れるのか？

獵師は

龍宮真名

長瀬楓

超鈴音の3人です。

ほかの登場人物も
ゲストとして

出るかもしれません。

MISSION 1 (3) (前書き)

猟師はあと2人・・・
鎖を解く者は現れるのか・・・

MISSION 1 (3)

聡莉「……やっと、森に着いた。」

ようやく森に出た聡莉・・・

しかし、ここから獵師を探さねばならない・・・

ネギ「…見つからないですね…どこにいらっしゃるのでしょうか？」

ネギも獵師を探すが、

獵師のいる場所まで

まだまだ距離がある・・・

明日菜「…もーっ！どこにいのよ！獵師！」

見つからないためイライラしている明日菜・・・

そこへ・・・

裕奈「…明日菜」

明日菜「！びっくりした」裕奈じゃない。」

裕奈「びっくりした」じゃなくて、見つかるよ。大声出したら…」

明日菜「…そんなに大きい声出してた？」

出してた・・・

裕奈「気をつけなよ。ただでさえバカなんだから」

明日菜「バカ言う…ムグッ」

裕奈「大声出すなってば！」

明日菜「ムムン（ゴメン）」

紀梨乃「んゝ、木ばっかだねゝ」

辺りを探す紀梨乃・・・
こちらにも猟師との距離は遠い・・・

ハルナ「だれもやってないのかな…」

城の庭園にいたハルナ・・・

ハルナ「…行ってみ…！ハンターだ！」

しかし、ハンターは

気付いていない・・・

ハルナ「…みんなを信じるか…」

行かないことを決めた・・・

勇次「！いた！猟師だ！」

ようやく獵師を見つけた勇次・・・

獵師A「！その人！」

獵師B「鎖を解いてくれないか？」

勇次「はい！」

勇次がもつ鍵は青・・・

勇次「これで・・・」

カチャッ

勇次「よしっ！」

ジャラッ！

青色の鎖 解錠

獵師B「自由になった！」

勇次「それで・・・」

獵師B「事情はわかってる。まかせろ！」

勇次「お願いします！」

勇次が獵師1人を自由にしたため、狼を捕まえに行く！

獵師B「いた！」

狼発見！

獵師B「くらえっ！」

パンツ！

狼B「アオ！」

狼が網に絡まったため、
前に進めなくなった！
ハンター1体封印・・・

残りは1つ・・・

勇次「やったぞ！」

獵師A「1人になってしまった…」

ピリリッピリリッピリリッ

裕奈、明日菜「！！！」

明日菜「なに？今度は…」

裕奈「…途中経過。」

鞘子「『桜咲刹那と中田勇次の活躍により、黄色と青の鎖が解かれ

2体のハンターを封印した。』」

都「『しかし、赤の鎖が解かれていないため、このままだとハンターが1体放出されてしまう。急ぎたまえ。』赤？赤ってだれ？」

現在、赤の鍵を持つのは

綾瀬夕映

柿崎美砂

絡繰茶々丸

千葉紀梨乃

東聡莉の5人・・・

ミッションに向かっているのは、千葉紀梨乃と東聡莉の2人・・・

紀梨乃「ヤバイなあゝ・・・」

聡莉「えゝ、まずここどこ？」

裕奈「…明日菜…私の鍵だとミッションは無理だわ。」

明日菜「！？えっ？裕奈も…」

裕奈「…明日菜も？」

ネギ「…青はもう大丈夫なんですね。」

青の鍵を持つ

明石裕奈

神楽坂明日菜

ネギ・スプリングフィールドは探すのをやめた・・・

美空「やっぱ誰かやってた！赤だけか！早くやってほしいなあ」

そんな美空の近くに・・・

ハンター・・・

美空「！うわっ！？」

見つかった・・・

美空「ヤバイ！」

ピーーーーー

美空「ヤバイヤバイヤバイ！！！」

ピーーーーー

なんとハンターを

振り切った・・・

さすがは陸上部・・・

美空「ハアッ！危なかった」

聡莉「赤の鍵だけ！急がないと、あと4分切ったし」

獵師を見つけない聡莉・・・
おまけに・・・

聡莉「…ここどこ」（泣）」

迷ったようだ・・・

聡莉「…とりあえず…こっちに…！！イヤァーッ！！」

美空を追っていたハンターに見つかった・・・

聡莉「イヤッ！ギャフッ！」

またこけた・・・

ピーーーーー

ボワン

東聡莉確保

残り18人

残り時間63分27秒

聡莉「ふえ〜ん（泣）」

踏んだり蹴ったりだ・・・

都「東聡莉確保…ドジって捕まったんじゃないでしょうね。」

そのとおりだ・・・

夕映「…まだダメです。動くのはもう少しあとです。」

赤の鍵を持つ夕映・・・

まだ動かない・・・

茶々丸「……向かうにしてもおそらく間に合わないでしょう。」

茶々丸は完全にあきらめているようだ・・・

現在、

赤の鍵を持つのは4人・・・

その中でミッションに

向かっているのは

千葉紀梨乃1人だけ・・・

ミッション終了まで

あと3分・・・

果たして、間に合うのか・・・

MISSION 1 (3) (後書き)

あと3分・・・

紀梨乃は間に合うのか・・・

MISSION 1 (4) (前書き)

ハンターボックスは
あと1つ・・・

しかし、

ハンター放出まで残り3分・・・
間に合うのか・・・

MISSION 1 (4)

紀梨乃「…いないなあ。」

赤の鍵を持つ紀梨乃・・・
獵師を探す・・・

紀梨乃「ここじゃないのかなあ…」

見つからない・・・
そこに・・・

和美「…千葉さん…だっけ？」

和美だ・・・

和美「…千葉さん？」

紀梨乃「あつ、えと…朝倉さん？」

和美「なにしてるんですか？…ミッションですか！？」

紀梨乃「うん。」

和美「えゝ、もう時間ないですよ。」

紀梨乃「場所さえわかれば…」

そこに忍び寄るハンター・・・

和美「いや、間に合いませんって。」

ピーーーーー

紀梨乃「でも……！ハンターだ！」

和美「ハンター！」

見つかった……

和美「最悪！」

紀梨乃「マズいマズい！」

2人の逃げる先に……

美砂「……逃げてる？」

美砂だ……

美砂「！こっち来た！」

つられて逃げる美砂……

しかし、

ハンターが視界に捕らえたのは……

和美「ハアッ……速い！速い！」

和美だ・・・

和美「！うわっ！！！」
ボワン

朝倉和美確保

残り17人

残り時間61分10秒

和美「話に気をとられてた！くやしー！！」

明日菜「！朝倉確保された！」

裕奈「…うそでしょ！？」

ミッション終了まで1分

紀梨乃「ハアツ…ハアツ…」

紀梨乃は無事に逃げた・・・

紀梨乃「…もう…無理だ…」

しかし、あきらめた・・・

美砂「ハアツ…びっくりしたよ、もう…」

美砂も無事逃げのびた・・・

美砂「……えっ!？」

美砂が逃げた先はなんと!

美砂「…龍宮さん!？」

獵師のいる場所だった!

獵師A「すまない。その人!鎖を!」

美砂「えっ!獵師さん?は、はい。」

美砂も赤の鍵を持っている!

ミッション終了まで30秒

美砂「これで…」

カチャッ

ジャラッ!

赤色の鎖 解錠

獵師A「助かった!」

美砂「え、あ…」

獵師A「あとはまかせろ!」

狼はすぐそこだ…

獵師A「覚悟！」

パンツ

狼A「！アオツ！」

狼が網に絡まったため
前に進めなくなった！
ハンター全て封印・・・

ミッションクリア

ピリリッピリリッピリリッ

鞘子「！わっ！」

メールだ・・・

アキラ「『ミッション結果』」

ハルナ「『柿崎美砂の活躍により、』」

明日菜「『赤色の鎖を解きハンターが全て封印された。』 柿崎やつ
たんだ！」

珠姫「…ありがとうございます。」

古菲「すごいアル」

美砂「…ミッションやるつもりなかったのに…次はやらない。」

当の本人はこの調子だ…

美砂「あの狼…小太郎くんだった気がする…ちらつと家の中見たけど…史ちゃんいたような…」

そして、

おばあさんの家の前では、

猟師C「お前たち！どうして、またこんなことを！」

狼たち「……………」

猟師A「黙ってたら何もわからないだろう！」

狼A「覚えてないんだ…」

猟師B「…なに！？」

狼B「俺たちおばあさんの家に行くつもりなんてなかったんだ。」

狼C「俺たちも驚いてるんだよ！」

猟師C「そんな嘘…」

猟師A「待て、嘘ではなさそうだ。」

猟師C「えっ！？」

猟師A「あんなにノロノロと獲物を狙う狼がどこにいる？」

猟師C「確かに…」

狼A「すまないことをした…本当に！」

すると、

ガチャツ

赤ずきん「あれっ？狼さんたち・・・どうしてここに？」

狼A「！あつ、赤ずきん…」

グウ~~~~

狼たち「あつ…」

赤ずきん「アッハハ、お腹がすいたの？これから、ご飯つくるの。いっしょにたべよ。」

狼A「えっ、いいのか？」

赤ずきん「うん！」

狼B「前に…食料奪おうとしたのに？」

赤ずきん「いいよ！」

狼C「…迷惑じゃないのか？」

赤ずきん「ほら、早く！獵師さん達も！」

おばあさん「あら、にぎやかだと思ったら…お見舞いに来てくれたのかい？」

狼A「…えっと」

獵師B「そのとおりですよ。」

狼たち「！」

獵師C「こいつら、入りづらそうにしてたので…」

おばあさん「まあまあ、じゃあ、どうぞ。あがってちょうだい。」

獵師A「ほら、どうするんだ？」

狼たち「…じゃあ、おじゃまします。」

こうして、

赤ずきんは無事に…

そして、

狼たちも赤ずきんたちと

仲良くすごすことができるようになったとさ…

しかし、

魔女「…おのれ」

それを快く思わない魔女・・・

魔女「…ならば…」

魔女の視線の先には
いったいだれが？

MISSION 1 (4) (後書き)

赤ずきんの物語は無事・・・

しかし、

魔女は新たなターゲットを狙う・・・

狼は

村上小太郎こと

犬上小太郎です。

赤ずきんは

鳴滝史伽です。

牢獄DEトーク1（前書き）

そのころ、

牢獄の中は・・・

牢獄DEトーク1

おとぎの国の中央にある
お城付近に設置された
牢獄では・・・

和美「ハンター速すぎだって！マシンだよ、本当に！」

まき絵「気持ちはわかるって・・・」

木乃香「うちらも同じやからなあ。」

円「森の中けっこう多いんじゃない？ハンター。」

さよ「森の中で捕まった方は？」

木乃香「はい」

円「はい・・・」

まき絵「はい。」

和美「・・・はい」

段十郎「じゃあ、4人森の中で捕まったわけか。」

さよ「えっ・・・じゃあ危ないですよ。」

そこへ・・・

段十郎「あつ、やっと来た。」

聡莉「……………」

聡莉がようやく牢獄に到着・・・

和美「ずいぶんボロボロですけど…」

聡莉「ふえ〜ん、森の中で迷子になって、ハンター見つけたけど
転んで…」

円「捕まっ たんですか…」

聡莉「そう……………」

木乃香「散々やったわけや。」

和美「やっぱ、森は危険じゃない?」

さよ「そうですねえ…」

美空「森を抜けて、お城の方に行こうかな?」

お城の方を目指す美空・・・

美空「あっちの方が安全じゃないかな?」

そう言ってお城に向かう・・・

ハルナ「……………また来た」

城の庭園にいるハルナ・・・
またしてもハンターを見つけた・・・

ハルナ「……………ふう。危ない……」

気づかれなかったようだ・・・

ハルナ「ここ危ないのかなあ……」

珠姫「……ここに隠れよう。」

城の近くに来了珠姫・・・

しかし、

先ほどハルナが見たハンターが近くに・・・

珠姫「……………！！来た……」

見つかった・・・

珠姫「……………」

ピーーーーー

和美「あつ、誰か走ってる！」

聡莉「タマちゃんだ！」

段十郎「逃げろーっ！」

ピーーーーー

珠姫「……フウ……」

なんとハンターを振り切った！

これで美空に続いて2人目だ……

珠姫「…休めない」

美空「着いた！城下町！」

城下町にたどり着いた美空……

美空「お城お城」

しかし、

先ほどハルナが見つけ、

珠姫を追っていたハンターが美空に近づく……

美空「お城お城おし！ろーっ！！」

見つかった……

美空「ヤバイヤバイヤバイ！」

1度ハンターを振り切った美空・・・
今度は・・・

美空「…！速い！ヤバッ、あーっ！」
ボワン

春日美空確保

残り16人

残り時間54分01秒

美空「お城………行きたかった………」

たどり着けず……

アキラ「春日美空確保！」

明日菜「えっ、美空も捕まった！？」

裕奈「え……、ハンターどんだけ速いの？」

そのころ、

魔女がまた動き出した……

牢獄DEトーク1（後書き）

魔女がまた事件を起こす・・・

く白雪姫くおとぎの国の事件く（前書き）

魔女の次のターゲットは・・・

白雪姫とひとりの国の事件

ある国の

森の中に1軒の家に

肌が雪のように白く美しい少女がおりました。
名前を白雪姫といました。

白雪姫「…もうすぐ、この国ともお別れね…」

少しまえ、

毒りんごを食べてしまったところをとある国の王子に助けてもらい
その縁で
いっしょに暮らすことになったのです。

白雪姫「……（＊／＼＊）」

とても幸せそうでした・・・

すると、

コンッコンッ

白雪姫「…！？はい？」

ガチャッ

白雪姫「…どなたですか？」

配達員「すみませ〜ん！お届けものです！」

白雪姫「ひゃっ!？」

配達員「ありや? すいません。驚きましたか？」

白雪姫「…はい…すぐ…」

配達員「まあともかく、お届けものです! どうぞ!」

白雪姫「は、はあ…」

配達員「しっつれいしました」

ボタンッ

白雪姫「…行っちゃった…これはなんでしょう?」

木箱には・・・

白雪姫「わあっ、果物がたくさん!」

おいしそうな果物が
いっぱいありました。

白雪姫「おいしそう…あっ、でも…りんごは…」

あのと看以来、りんごは
苦手な様子。

白雪姫「…? これはなんでしょう?」

白雪姫が見つけた果物は
見たことがないものでした。

白雪姫「はじめて見ます。どんなお味なんでしょう。……いただきます。」

シャクッ

その果物を一口食べました。

白雪姫「…甘くておいしい……あ……れ……？」

白雪姫の様子がおかしいです。

白雪姫「……急に……ねむ……く……」

バタンッ

白雪姫は倒れて眠ってしまいました。

すると、

??「ふふふっ、たべたわね。」

そこに現れたのは
先ほどの配達員……

いや、

魔女「じゃーん！」

配達員は魔女だった！

魔女「あなたが食べたのは、スヤスヤの実。食べたら最後、永遠に夢を見続けるのよ。夢の中で幸せに……」

そう言っと、

魔女は去っていきました。

そして、

白雪姫の家にあった

ゲームタイマーが

カチッ…カチッ……………

止まった・・・

く白雪姫くおとぎの国の事件く（後書き）

魔女の罠にかかり

永遠の眠りについた白雪姫・・・

第2のミッションがはじまる・・・

MISSION 2 (1) (前書き)

第2のミッションが
はじまる・・・

MISSION 2 (1)

ピリッピリッピリッ

鞘子「わっ！」

メールだ・・・

鞘子「…ミッションだ！」

裕奈「『白雪姫が魔女によってスヤスヤの実を食べてしまい永遠の眠りについてしまった。』んっ？どういうこと？」

夕映「『その影響でゲーム時間を表すタイマーが停止してしまった。』！？えっ？」

亜子「！ほんまや、うごいてへん」

美砂「うそでしょ！『このままではゲームは終わらず自首するかハントーに捕まるのを待つしかない。』」

珠姫「…『阻止するには、城下町の薬屋から薬をもらい白雪姫に飲ませなければならない。』……」

茶々丸「…大変なことになりました。」

MISSION 2

ゲーム時間を動かせ！

白雪姫が魔女の罠にはまりスヤスヤの実を
食べてしまったため、

永遠の眠りについてしまった。

その影響でタイマーも眠りにつき、ゲーム時間が止まってしまった。
再び時間を進めるには

城下町の薬屋に行く

薬をもらい白雪姫に

飲ませなければならない。

いま現在、

残り時間50分・・・

ミッションをクリアしない限り、時間が動くことはない・・・

明日菜「ヤバイよね。これ・・・」

裕奈「行かなきゃ、ダメでしょ!」

古菲「ひどいアル!薬屋ってどこアル?」

亜子「これは行かな!」

アキラ「……薬屋を探さないと。」

夕映「…動くです。」

珠姫「行きます。」

都「危ないかもしれない…けど、行く!」

ミッションに参加する者が続々あらわれる・・・

美砂「私は…やらない！絶対ヤダ！」

相変わらずの美砂・・・

ハルナ「えゝ、行きたくないなあゝ。ハンターに見つかって…」

だが、ハルナの近くに
またハンター・・・

ハルナ「……！またきた…」

今度は・・・

ピーーーーー

見つかった・・・

ハルナ「！来た！！」

逃げ切れるのか・・・

ハルナ「は、速い！」

ピーーーーー

ハルナ「速いって！速いってーっ！！」
ボワン

早乙女ハルナ確保

残り15人

残り時間50分00秒

（停止中）

ハルナ「何よ！あの速さ！……えっ……」

夕映「ハルナ捕まったですか！？」

明日菜「パル捕まった！」

裕奈「うえ！？マジ！？」

ゲーム時間は停止している……

このままではゲームは

終わらない……

このミッションは

クリアしないといけない……

MISSION 2 (1) (後書き)

禁断の時間停止ミッション・・・
クリア出来るのか・・・

MISSION 2 (2) (前書き)

薬屋に向かう逃走者たち・・・
無事にたどり着けるのか？

MISSION 2 (2)

城下町に向かう明日菜と裕奈・・・

明日菜「…ねえ、城下町ってどっち？」

裕奈「こっち！」

明日菜「…地図がわかんない。」

地図がよめない女・・・

亜子「町や！」

城下町の近くの森にいた亜子・・・
無事にたどり着いた・・・

亜子「薬屋は…」

今度は薬屋を探さねばならない・・・

アキラ「……」

アキラの目の前には町の入り口・・・

しかし、

アキラ「ハンターがいる…」

ハンターが近くにいるため入れない…

古菲「薬屋は？どこヨ。」

薬屋を探す古菲…

古菲「…どこアル？」

…いま通りすぎたところだ

明日菜「裕奈！はやく〜！」

裕奈「よく動けるな〜」

2人の近くにハンター…

明日菜「はやく〜」

裕奈「わかって…！ハンターだ…！」

見つけた…

明日菜「来たーっ！」

裕奈「来たっ！来たっ！」

ハンターが視界に捕らえたのは・・・

裕奈「ヤバイ、速い！」

近くにいた裕奈だ・・・

裕奈「！うわっ！！」

ボワン

明石裕奈確保

残り14人

残り時間50分00秒

（停止中）

明日菜「裕奈捕まった！？どうなったかな？」

裕奈「ああゝゝ！！もうっ！！捕まったーっ！！くやしーっ」

亜子「えっ！？裕奈も捕まった！？…アキラ…大丈夫かな？」

アキラ「……まだいる。」

そのとき、

ピリリッ…

アキラ「！！」

電話の音でハンターが気づいた！

アキラ「ヤバイ……」

亜子「……あれ？出えへん……」

アキラ「わっ！速い！！」

ピーーーーー

アキラ「キャア！」

ボワン

大河内アキラ確保

残り13人

残り時間50分00秒

（停止中）

アキラ「……」

ピッ

亜子「あっ、アキラ？」

アキラ「いま捕まった……」

亜子「えっ！！……電話したから？」

アキラ「……気にしないで、がんばって。」

ピッ

亜子「…わゝ、悪いことしたゝコメン、アキラ…」

鞘子「どんどん捕まってる…」

ネギ「どうしましょう…」

夕映「やっと町に着いたです。」

ようやく動いた夕映・・・
町に到着・・・

そこに・・・

夕映「くーふえさん・・・」

古菲「夕映！」

バカブラックとバカイエローが出会った・・・

夕映「薬屋に行っただすか？」

古菲「見つからないアル。」

さつき通りすぎた・・・

夕映「もう1回探しに行きましょう…」

すぐ近くにある・・・
バカレンジャー気づかず・・・

森の中に隠れる鞘子・・・

鞘子「…怖い。もう自首しようかな？」

鞘子がいる場所は教会に近いところだ・・・

鞘子「…もう少しねばろうかな？」

自首に揺れ動く鞘子・・・

刹那「……いる。」

ハンターを見つけた刹那・・・

刹那（へたに動けないな…）

だが、後ろから・・・

ピーーーーー

刹那「…！しまった！」

ハンター・・・

この騒ぎでもう1体のハンターも気づいた！

刹那「油断した！」

逃げ場がなかった・・・

ボワン

桜咲刹那確保

残り12人

残り時間50分00秒

（停止中）

刹那「…1体に気をとられてた…未熟だ」

明日菜「…！うそっ！刹那さんも捕まった！」

勇次「……これで半分が捕まった。」

夕映「……ここじゃないですか？」

古菲「えっ！？ここアルか？」

そこが薬屋だ・・・

夕映「入りましょう。」

ギッ

薬屋「いらっしやい」

夕映「あの〜、薬が欲しいんです。」

薬屋「どのようなお薬で？」

古菲「眠りから覚める薬アル！」

薬屋「眠り？」

夕映「え〜、スヤスヤの實の眠りからです。」

古菲「それアル！」

薬屋「あ〜〜…」

夕映、古菲「？」

薬屋「いま………無い。」

夕映、古菲「……………えっ!？」

MISSION 2 (2) (後書き)

逃走者がどんどん捕まる・・・

そして、

薬がないとはどういうことなのか？

MISSION 2 (3) (前書き)

薬が無いとは？

ミッションは

いったいどうなってしまっているのか？

MISSION 2 (3)

夕映「薬がないってどういうことですか？」

薬屋「…じつは先ほど」

時は少しさかのぼる・・・

ギイツ

薬屋「いらっしやい」

??「すみません。ウエカの薬をください…あるだけ」

薬屋「あるだけ！？　いったいどうしたんですか？」

??「じつはさつき子供たちがスヤスヤの実をたべてしまって…」

薬屋「そりゃ大変だ！　今すぐ用意します。」

??「ありがとうございます…」

(にやっ)

薬屋「……はいっ、どうぞ。配達員さん。」

配達員「助かりました。」

薬屋「ということがありまして…」

古菲「えー、どうするアル？ミッションクリアできないアル！」

薬屋「あ、いえ、材料さえあれば、すぐ作れます。」

夕映「！材料とは何ですか？」

薬屋「ウェカの花です。」

夕映「どのような花なのですか？」

薬屋「花卉は真っ白で、葉は深い緑色をしていて、上から見るとお星さまの形をしています。」

夕映「それはどこに？」

薬屋「うーん、森の花畑にならたくさんあるはず…」

夕映「いくつ必要ですか？」

薬屋「1本あれば大丈夫です。」

夕映「わかったです！」

古菲「わかったアル！」

いま薬屋には
魔女によって

スヤスヤの實の眠りを覚ますための薬、
ウエカの薬がない・・・
作るには

ウエカの花1本が必要で
森の花畑にしか生えていない・・・
花畑は森の北部にある・・・

いま現在、

森の北部にいるのは、

千葉紀梨乃と

柿崎美砂の

2人だ・・・

さらに花畑にもっとも近いのは・・・

美砂「きれいな花が咲いてるなあ・・・」

柿崎美砂だ・・・

しかし、

ミッションに花が必要であることを知っているのは・・・

綾瀬夕映と

古菲の

2人のみ・・・

薬屋を出た2人・・・

古菲「今すぐ花畑に行くアル！」

夕映「待つです！くーふえさん！場所知ってるですか？」

古菲「……知らないアル！」

夕映「なので、電話して聞いてみましょう。」

古菲「わかったアル！」

夕映がかけた相手は……

ピリリッ…

ネギ「んっ？」

ネギだ……

ネギ「夕映さんから？」

ピッ

ネギ「どうしました？」

夕映「ネギ先生…手短に話します。森の花畑の場所を知っていますか？」

ネギ「花畑ですか？いえ…」

夕映「そうですか…」

ネギ「花畑探しでしょうか？」

夕映「本当ですか!？」

ネギ「はい！」

夕映「白くて星の形をしてる花がミッションに必要なんです。」

ネギ「わかりました。ありがとうございます！」

ピッ

一方、古菲がかけた相手は・・・

ピリリリッ…

茶々丸「…？」

茶々丸だ・・・

ピッ

茶々丸「…はい。」

古菲「茶々丸？」

茶々丸「古菲さん。どうしました？」

古菲「花畑の場所を知ってたら教えてほしいアル。」

茶々丸「…すみません…私は知りません。」

古菲「そうアルか。もし見つけたら教えてほしいアル。」

茶々丸「わかりました。」

ピッ

夕映「どうでしたか？」

古菲「ダメアル…そっちは？」

夕映「こつちもです…」

古菲「私探すアル！じっとしてられないアル！」

夕映「えっ！あっ！」

走ってった古菲・・・

夕映「大丈夫でしょうか…」

鞘子「…自首しようかな。」

自首を決めた鞘子・・・

鞘子「行こう！…あっ…」

ハンターがいた・・・

そして、逃げる間も無く・・・
ボワン

桑原鞘子確保

残り11人

残り時間50分00秒

（停止中）

鞘子「……そんなあゝ」

紀梨乃「サヤが捕まった…」

美砂「もうヤバいじゃんさ」

珠姫「大変な状況ですね…」

珠姫の近くに鞘子を確保したハンター・・・

珠姫「…！」

気づかれた・・・

珠姫「くっ…」

1度ハンターを振り切った珠姫・・・
今度はどうだ・・・

珠姫「……………」

ピーーーーー

なんとまたしてもハンターを振り切った！

珠姫「…もうかなり…大変です…」

珠姫が何かを考える・・・

珠姫「……決めました。」

決めました、とは？

珠姫「……自首します。」

MISSION 2 (3) (後書き)

自首を決めた川添珠姫！
自首できるのか？

MISSION 2 (4) (前書き)

自首を決意した川添珠姫！
果たして、どうなるのか？

MISSION 2 (4)

珠姫「……自首します。」

なんと自首を決めた珠姫！

珠姫「抜けるのは嫌だけど、DVD・BOX手に入らなくなりますし……」

私欲に走った女……

珠姫「……教会も近くに」

教会は森の東部にあり、
珠姫も東部にいた……

珠姫「……あつちに教会が」

都「……自首したくなってきた……いや、しない。ミッションをあきらめない！」

珠姫「もうすぐ……」

美砂「……時間うついてない。誰かはやくしてよ」

勇次「町までもうすぐだ…」

珠姫「着いた…」

教会にたどり着いた・・・

しかし、

神父がいないと自首はできない・・・

珠姫「懺悔室…」

ガチャッ

バタンッ

珠姫「神父さんが…」

いなかった・・・

珠姫「…待つしかない」

そのとき、

教会の近くにハンター・・・

ハンターは珠姫に気づいていない・・・

ガチャッ！

珠姫「！！」

神父「どうされましたか？」

神父だ・・・

珠姫「あ、あの・・・」

神父「はい。」

珠姫「川添珠姫…自首します。」

神父「…祈りましょう。さすれば、神は許してくださいます。」

川添珠姫自首成立

36万円獲得

残り10人

残り時間50分00秒

（停止中）

珠姫「ありがとうございます…」

ピリリッピリリッピリリッ

勇次「メール…！タマちゃん自首した！」

明日菜「えっ！？自首成立！？」

都「…1番意外な人が自首した。」

和美「…えっ！？川添珠姫自首！」

聡莉「うそっ！？」

裕奈「なんで？」

牢獄メンバーも騒然・・・

珠姫「…ホツとしました。…つまらないと思われるかな…」

夕映「…いま思えば、花畑はどこか聞くべきでした…猛省しなければなりません。」

ピリリッ…

夕映「電話…誰からですか？…柿崎さんです。」

ピッ

夕映「はいです。」

美砂「ゆえきち？」

夕映「なんでしょうか？」

美砂「ミッションやってる？」

夕映「やってるです。しかし、問題がありまして…」

美砂「なに問題って？」

夕映「いま薬が無くて、材料を探さないといけないです。」

美砂「なにそれ！材料ってなに！？」

夕映「ウエカの花という、花卉が白く、葉は深い緑色でお星さまのような形の花で、森の花畑にあるそうです。」

美砂「……えっ！？」

夕映「もう1度言いましょうか？」

美砂「いや、いい！わかったから！」

夕映「そうですか？」

美砂「うんっ！じゃあね！」

ピッ

美砂「……うそでしょ」

美砂がいるところは……

美砂「なんでよ……」

森の花畑だ……

美砂「なんでこうなるの……」

花畑にいる美砂……

いったいどうする……

美砂「…ウエカの花ってどれ？」

ミッションに挑む！

美砂「……白くて緑で……星の形……これ？」

それがウエカの花だ……

美砂「持ってかないと……」

町に向かう美砂……

だが、町まではかなり距離がある……

動けばハンターに見つかるリスクも高まる……

無事にたどり着けるのか……

MISSION 2 (4) (後書き)

まだ続くミッション・・・
美砂は町にたどり着けるのか・・・

MISSION 2 (5) (前書き)

町を目指す美砂・・・

そして、

花を探す逃走者・・・

白雪姫を目覚めさせることは出来るのか？

MISSION 2 (5)

美砂「もう…どうして…こうなるの…」

愚痴りながら町を目指す美砂・・・

先ほど、

美砂『これかな?』

柿崎美砂 ウェカの花入手

夕映の情報で

ウェカの花がミッションに必要とわかり
近くにいた美砂が花を手し、しゅしゅ町に向かっていた・・・

美砂「…ミッションやりたくないのに」

ぶつぶつ愚痴を言う美砂・・・

亜子「…! あった! 薬屋や。」

ようやく薬屋を見つけた亜子・・・

ギッ

薬屋「いらっしやい。」

亜子「すいません。薬ください。」

薬屋「どのようなお薬で？」

亜子「眠りから覚ますためのお薬やねんけど…」

薬屋「……もしかして、スヤスヤの实に關係します？」

亜子「そうです。」

薬屋「……じつは」

「ここでもうやく亜子も薬がないことを知った・・・」

亜子「えへ、そんな…」

薬屋「さっき別の2人にもそう話してね。」

亜子「……わかりました。」

薬屋を出る亜子・・・

亜子「とにかく、森にいかんと…」

亜子もウエカの花を手に入れるために森に戻る・・・

花畑を探す茶々丸・・・

そして、ネギ・・・

ネギ「どこにあるんでしょうか・・・」

茶々丸「…！ネギ先生。」

ネギ「茶々丸さん！」

花畑を探している2人が出会った・・・

茶々丸「いま花畑を探してまして・・・」

ネギ「茶々丸さんですか!？」

茶々丸「はい…ですが、見つかっていません。」

ネギ「じつは僕もできて・・・」

2人がいる場所は森の西部・・・

花畑は無い・・・

ネギ「あつちを探しましたけど・・・」

茶々丸「ではあつちの…北側の方へ行ってみましょうか・・・」

ネギ「はい!」

2人で花畑を探すようだ・・・

明日菜「…………迷った。」

完全に迷子になった明日菜・・・

明日菜「町はどこよ…」

すると、

亜子「明日菜？」

亜子だ・・・

明日菜「！亜子！助かった！」

亜子「？なにが？」

明日菜「町に行きたくて、向かってたら…」

亜子「迷ったん？」

明日菜「…………うん。」

亜子「薬屋に行くん？」

明日菜「ミッションやらないと終わんないもん。」

亜子「薬屋行っても意味ないよ。」

明日菜「えっ！？なんで？」

事情を説明する亜子・・・

明日菜「つまり、いま薬は売り切れで材料の花を探さないといけないってこと!？」

亜子「そうなんよ。」

明日菜「えゝ、なによそれゝ」

亜子「で、明日菜、花畑の場所知らん？」

明日菜「知らないわよ…あれ、もしかして…」

亜子「心当たりあるん？」

オープニングゲーム終了時、ひたすら逃げた明日菜は・・・

明日菜『なんでオレンジなのよ!大丈夫な色って思ってたのに!ここだってオレンジ色の花いっぱい咲いてるし!』

花畑にいたのだ!

明日菜「あそこかな?…あそこだ!!!」

亜子「知ってんの!?明日菜!」

明日菜「知ってる!」

亜子「ほな、はよ行かん！」

明日菜「うん！……あれ？」

亜子「どないしたん？」

明日菜「どっちから来たっけ……」

亜子「……」

役にたてず……

町の近くまでやってきた美砂……

美砂「まだ着かないの？……！！わっ！」

夕映「！！」

美砂が出会ったのは夕映だ……

美砂「もう！びっくりした！」

夕映「わたしもです……あれ？それは……」

美砂「花みつけた……」

夕映「良かったです。薬屋はもうすぐです。」

美砂「う、うん……」

夕映についていく美砂・・・

茶々丸「……ネギ先生。」

ネギ「はい？」

茶々丸「ハンターがいます。」

ネギ「えっ!？」

2人の視線の先にハンター・・・

茶々丸「先生、危ないので気をつけましょう。」

ネギ「は、はい。」

2人が見つけたハンターが・・・

ピーーーーー

2人に気づいた・・・

茶々丸「!逃げましょう!」

ネギ「わっ!来た!!」

逃げ出す2人・・・

ハンターが視界に捕えたのは・・・

茶々丸「…こっちに来ました。」

茶々丸だ・・・

じつはロボットの茶々丸・・・

サイボーグのハンターに勝てるのか？

MISSION 2 (5) (後書き)

ハンターに追われる茶々丸・・・
逃げ切れるのか？

MISSION 2 (6) (前書き)

ロボットVSサイボーグ！

茶々丸の運命は？

そして、ミッションは？

MISSION 2 (6)

ハンターに見つかった茶々丸・・・
ロボットVSサイボーグの勝者は？

茶々丸「……………」

逃げることに集中するロボット・・・

ピーーーーー

それを追うサイボーグ・・・

ピーーーーー

森の茂みを利用してなんとか振り切ったようだ・・・

勝者は茶々丸・・・

茶々丸「…危なかった…茂みがなければ捕まってました…先生は無事でしょうか？」

ネギ「ハアハア…茶々丸さん大丈夫でしょうか？」

無事のようにだ・・・

美砂「着いた？」

夕映「着きました！」

ようやく薬屋にたどり着いた美砂・・・

ギッ

薬屋「いらっしゃあ！あつ！ウエカの花！」

美砂「これで薬を・・・」

薬屋「わかりました！」

美砂「はやくお願いします！」

薬屋「まかせてください！」

・・・

薬屋「よしっ！出来たよ！」

夕映「できたですか？」

薬屋「これがウエカの薬だ。」

柿崎美砂＆綾瀬夕映　ウエカの薬入手

夕映「はやく行きましょう！」

美砂「えっ！？ちよっ！？」

急いで白雪姫の家に向かう2人・・・

白雪姫にウエカの薬を飲ませば、眠りから目覚めゲーム時間が再び動く・・・

美砂「待ってって!」

夕映「急がないとゲーム時間が動きませんよ!」

美砂「……うん」

いまだしぶしぶついてく美砂・・・

古菲「花畑はどこアル?」

明日菜「こっち…だっけ?」

亜子「明日菜しっかりしてや!」

紀梨乃「まだ時間うごいてない…」

茶々丸「……………」

ネギ「花畑はどこですか?」

ほかの逃走者も焦りを隠せない・・・

そんななか・・・

勇次「マズいなあ……」

隠れている勇次の近くに・・・
ハンター・・・

勇次「もうすぐ町なのに……」

そこへやってきたのは・・・

夕映「はやく行くです！」

美砂「待ってよ！」

薬を持つ夕映と美砂・・・

2人はハンターに気づいていない・・・

そんな2人に気づいた勇次・・・

勇次「！！ハンターに気づいてないのか？………よしっ！」

夕映「！ハンターです！」

美砂「！うそでしょ！」

ハンターが2人に気づく…

勇次「こつちだ！」

いや、勇次に気づいた！

勇次を追いかけるハンター・・・

美砂「！？えっ！うそ！」

夕映「……まさか！？」

勇次「うおおおーっ！！！」

ピーーーーー

2人のおとりとなった勇次・・・

ピーーーーー

勇次「！うわっ！！」

ボワン

中田勇次確保

残り9人

残り時間50分00秒

（停止中）

勇次「……2人は無事かな」

男の中の男だ！

美砂「ねえ、いま中田さん…」

夕映「…私たちを助けたね。」

美砂「なんで？（会ってまだ間もないのに…どうして…私たちを…）」

夕映「…自分の利益より人のためを選択したのでしょう。」

美砂「（…人のため…もし、ハンターが円の近くにいたら、私は助けたかな？…円は…どうしたかな？…私…）情けない…」

夕映「はい？」

美砂「！なんでもない！はやく行こう。」

夕映「はいです…」

美砂「（…私…自分のことしか頭になかったな…今からでも…うつん、いまやるんだ。ミッシェンクリアしなきゃ！）」

夕映「（？さっきと雰囲気が変わったです…）」

白雪姫の家までもう少し…

MISSION 2 (6) (後書き)

勇次が確保されたことにより、美砂の心境が変わった！
美砂と夕映はミッションをクリア出来るのか？

MISSION 2 (7) (前書き)

時間を動かすために夕映と美砂が白雪姫のもとへ向かう！

MISSION 2 (7)

薬を手に入れた美砂と夕映・・・

美砂「ねえ、こっちであつてるかな？」

夕映「あつてるです。もう近いです。」

白雪姫の家はもうそこだ・・・

美砂「！見えた！あれ？」

夕映「間違いないです！」

たどり着いた！

美砂「白雪姫は…中かな？」

ガチャッ

美砂「…………ええっ！？本屋ちゃん！？」

夕映「！！のどか！？」

美砂「……本屋ちゃんが白雪姫？」

夕映「ここにいるという事はそうではないかと……」

美砂「じゃあ、薬を……」

白雪姫にウエカの薬を飲ませた！

美砂「……どう？」

夕映「……………」

白雪姫「……………んっ……………」

夕映「あっ……………」

白雪姫「うゝん……………??……………わたしいたい？」

美砂「やった！起きた！」

夕映「やったです！」

ミッションクリア

白雪姫「えっ？起きたって？……………そうだ……………わたし果物を食べたら……急に眠くなつて」

夕映「……………これがスヤスヤの実ですね。」

美砂「もうこの実を食べちゃダメだよ。白雪姫さん。」

白雪姫「えっ、はいです。」

美砂「じゃあ、行こつかゆえ吉。」

夕映「ええ。」

白雪姫「あつ、あの…」

美砂「？」

夕映「なんでしょうか？」

白雪姫「あ、ありがとうございました。」

美砂「……ううん、じゃあね！」

夕映「さよならです。」

2人の逃走者が去ったあと……

白雪姫「…私…また助けられた…助けられて…ばかりです…獵師さん…小人さんたちに王子様…そして、
あの方たち…」

しばらくすると……

ガチャッ

白雪姫「！」

??「あつ、驚かせてしまいましたか？」

白雪姫「いえ、王子様…」

現れたのは隣の国の王子様でした・・・

王子様「…？どうかしましたか？」

白雪姫「……いえ、なんでも…」

王子様「僕にも言えませんか？」

白雪姫「……わたし……いつも助けられてばかりで………みんなに……迷惑かけてばかりだなんて……自分がちよっと嫌になっちゃって……」

王子様「…なるほど。けどね。」

白雪姫「え？」

王子様「助けられるってことは、みんな白雪姫のことが好きなんだよ。」

白雪姫「！」

王子様「好きな人というってことは、みんなが幸せになれるんだよ。白雪姫といるだけで、みんな幸せなんだよ。」

白雪姫「……王子様も？」

王子様「もちろん！」

白雪姫「私も幸せです！」

こうして、

白雪姫はスヤスヤの實の眠りから目覚め、

そして、

王子様と再び幸せに暮らすことができたとき・・・

しかし、

魔女「おのれ…またしても…」

魔女は悔しがつていた・・・

魔女「薬だつて買い込んだのに…！悔しい！悔しい！………なら、次こそ！」

魔女の次の標的は・・・
いつたい？

MISSION 2 (7) (後書き)

ゲーム時間は再び動き出した・・・
だが、魔女はまだ誰かを狙っている・・・

牢獄DEトーク2（前書き）

ミッションクリア！

そして、牢獄では・・・

牢獄DEトーク2

おとぎの国の中央にある
お城付近に設置された
牢獄では・・・

和美「！あっ！！」

木乃香「どないしたん？」

和美「タイマー動いてる！」

円「！本当だ！てことは・・・」

裕奈「誰かクリアしたんだ！」

鞘子「すごい！」

段十郎「ほぼ絶望的な状況で・・・やるなあ・・・」

そこへ・・・

聡莉「あっ、タマちゃん！」

自首をした珠姫が来た・・・

珠姫「やっと着いた・・・」

鞘子「ズルい！自首するなんて・・・」

人のことは言えない・・・

珠姫「…ズルいとは思いましたが、2度もハンターに追われまして…」

美空「！2回追われて振り切ったんすか？」

裕奈「…それもすごい。」

珠姫「次はダメと思って…」

鞘子「いいなあ～いいなあ～、わたし自首しようとして捕まったのに！」

聡莉「自首しようと思ったんですか？」

鞘子「うっ……」

円「人のこと言えないじゃないですか…」

鞘子「……………」

さよ「まあまあ、まだ終わってないんですから…」

和美「50分か…長いよ…逃げ切れるのかな？」

そして、

ピリッピリッピリッ

メールだ・・・

和美「メール来た……」

ハルナ「なにになに？」

和美「ミッシヨンクリア。わっ！綾瀬夕映と柿崎美砂の活躍により白雪姫が目覚めた。だって！」

ハルナ「夕映が！」

円「美砂が！？2度も？」

木乃香「くぎみー、驚きすぎやて。」

円「くぎみー言うな。いや、だって始まる前……」

円「始まるぞー」

美砂「よしっ！」

円「ミッシヨンやるときはよろしくー！」

美砂「わたしやらない。」

円「えっ！？」

美砂「絶対やらないから、よろしくー！」

円「って言ってたんだよ。」

木乃香「どういう心境の変化やる？」

そこに、美砂の心を動かした人物が牢獄に到着・・・

勇次「いやあ、捕まっちゃった。」

段十郎「ユージもかあ。」

勇次「ハンター速い。見つかったら逃げ切るの難しい。」

美砂と夕映を助けて捕まったことは言わない勇次・・・

都「すごいな。クリアしたんだ。」

町の近くまで来た都・・・

都「…私なんにもしてない。次のミッションは絶対参加して成功する！」

ミッション参加宣言だ・・・

紀梨乃「……………」

森に潜む紀梨乃の視線の先は・・・

紀梨乃「……………はっ！ぼーっとしてた。」

何もなかった・・・

紀梨乃「集中しないと。集中！」

集中力の無さが彼女の弱点である・・・

古菲「なんとかミッションクリアしてよかったアル。」

夕映と行動し、

花畑を単独で探していた古菲・・・

ミッションクリアに喜ぶ・・・

古菲「まだ余裕アル！ハンターどこからでも来るアル！」

体力はまだまだあるようだ・・・

明日菜「……………」

亜子「ミッションクリアや。」

こちらにも、

花畑を探してた亜子と明日菜・・・

ちなみに、

明日菜は花畑の場所を思い出せなかった・・・

亜子「...まあ、クリアしたんやから。」

明日菜「.....うん」

ショックはあるらしい・・・

そして、

魔女がまた動く・・・

牢獄DEトーク2（後書き）

魔女の標的はいつたい？

～シンデレラ～おとぎの国の事件～（前書き）

魔女のターゲットは・・・

～シンデレラ～おとぎの国の事件～

とある国の

とある町に1人の少女がおりました。

その少女の名は・・・

「シンデレラ!!」

シンデレラ「!はいっ...」

シンデレラと言いました。

シンデレラは毎日のように母親と姉たちに意地悪されていました。

そんなある日、

シンデレラの家にお城から舞踏会の招待状が届きました。

母親と姉たちは

おしゃれをしてお城に行きました。

しかし、

シンデレラはお留守番です。

シンデレラ「...今ごろお母さま達は舞踏会か...楽しいのかな?...
行ってみたいなあ...でも...こんな格好じゃ行けないよね。」

そんなときでした。

??「その願い叶えてさしあげましょう。」

シンデレラ「！！だれっ！？」

??「ウフフ、ごめんなさい。おどろかせてしまいましたね。私は魔法使いです。」

シンデレラ「魔法使い……」

魔法使い「ええ、そうよ。」

シンデレラ「……魔女じゃなくて？」

魔法使い「あらあ、冗談にしてはひどくありません……？」

シンデレラ「ひっ！ごめんなさい！」

魔法使い「ウフフ、気にしないで。あなたをお城に連れてってさしあげます。」

シンデレラ「でも、私にはきれいなドレスもないし……今から行っても……」

魔法使い「私に任せて！」

そう言うと、

魔法使いは魔法で……

シンデレラ「……えっ！？すごい……」

シンデレラにきれいなドレスとガラスの靴を……

魔法使い「まだよ」

また魔法で今度は、

シンデレラ「？あつ、あれって…」

魔法使い「ウフフ、手近にあったものでつくったから、ごめんなさい。」

シンデレラ「すごい…カボチャで出来た馬車だ…」

カボチャの馬車を出しました…

シンデレラ「これを…わたしに？」

魔法使い「ええ、それで楽しんでらっしゃい…ただし、ひとつだけ注意。」

シンデレラ「注意？」

魔法使い「12時になってしまうと魔法は解けてしまうの。だから、12時になる前に帰らないと。」

シンデレラ「はい、わかりました。ありがとうございます。」

魔法使い「じゃあ、出発！」

シンデレラは

魔法使いのおかげで

お城に向かいました。

そして、お城では・・・

王子が1人で外を眺めてました。

王子「…いつものように、舞踏会か…退屈だな…つまらない…」

つまらなさそうにしているのも理由がありました。

この舞踏会は

王様が王子の結婚相手を

探すために開いたのです。

それを知っている王子は

飽き飽きでした。

王子「自分の将来の相手は自分で見つけるというのに…素直に楽しめないじゃないか。」

そんなとき、

王子「…ん？あれは…誰だ？」

王子が見たのは・・・

魔法使い「さあ、着いたわ。」

シンデレラ「わあ、お城だ…」

シンデレラ達でした。

シンデレラ「……本当にわたしここに来てよかったのかな…」

魔法使い「あら、不安？」

シンデレラ「…はい。」

魔法使い「大丈夫よ。不安も心配もする必要ないわ。がんばって！」

シンデレラ「で、でも…」

王子「！…美しい。」

シンデレラ「え？」

魔法使い「あらあら。」

そこにはこの国の王子がいました。

王子「失礼…わたしといっしょに踊りませんか？」

シンデレラ「わ、わたしですか？でも、わたし…今まで踊ったことなくて…」

王子「大丈夫です。私に任せて…」

シンデレラ「は、はい…」

舞踏会で

王子とシンデレラは

楽しそうに踊りました。

しかし、

楽しい時間は長くありませんでした。

シンデレラ「はっ、今何時ですか？」

王子「えっ？もうすぐ12時ですよ。」

シンデレラ「大変！帰らないと！」

王子「えっ！待ってください！」

シンデレラ「ごめんなさい！どうしても帰らないといけないんです！キャッ！？」

王子「あっ！」

シンデレラが階段を駆けおりたとき、ガラスの靴を片方落としてしまいました。

王子がそれを拾った隙に

シンデレラは帰ってしまいました。

王子「……はじめてだ。こんなに楽しかったのは……もう一度彼女に会いたい！」

シンデレラ「……もとに戻っちゃった。」

魔法が解けてもとの姿に戻ったシンデレラ。

シンデレラ「…優しい人だったなあ…いつかもう一度会いたいなあ…」

そして、次の日…

（逃走中が行われてる日）

王子「…この靴の持ち主探すんだ！絶対だ！」

ガラスの靴を使ってシンデレラを探していました。

その様子を見ていたのは…

魔女「今度は、あれだ。」

魔女だった。

王子「…いったいどこに」

そのとき、

ブワァーーーーッ

王子「！な、なんだ！？」

そして、

王子「！あっ！靴が！！」

ガラスの靴が空へ舞い上がり・・・

パシッ

魔女「…魔法使いの魔法の靴か。」

魔女の手に渡ってしまった！

王子「それを返してくれ！大切なものなんだ！」

魔女「断る！！じゃあ、さよなら。」

王子「待て！…今すぐ靴を取り戻せ！…魔女め。」

そして、

魔女「ここまでくれば大丈夫だろう。さて、この靴はここに隠そう
…」

このとき、

魔女は知らなかった。

その様子を見ていたものがいたことを・・・

～シンデレラ～おとぎの国の事件～（後書き）

3つ目のミッションが始まる・・・

MISSION 3 (1) (前書き)

第3のミッションが始まる・・・

MISSION 3 (1)

ピリッピリッピリッ

明日菜「！また来た！」

メールだ・・・

明日菜「ミッションだ！」

都「『魔女が王子からシンデレラのガラスの靴を盗んだ。』ダメでしょ！盗んじゃ！」

夕映「『残り35分までに盗まれたガラスの靴を見つけ。』」

ネギ「『お城近くにいる王子に渡せば。』」

和美「『牢獄から2人復活させることが出来る。』！だって！」

まき絵「ほんと〜！」

ハルナ「まだチャンスがある！」

和美「『ただし、復活した者が逃走成功した場合、復活させた者に賞金を半分渡さなければならぬ。』」

裕奈「それくらい全然だよ！」

美砂「『ガラスの靴の場所を知っているのは…』」

古菲「『とけいウサギのみ。急ぎたまえ。』とけいウサギって誰アル？」

MISSION 3

賞金ボーナスを獲得せよ！

魔女が王子からガラスの靴を盗み、どこかに隠した。
残り35分までに、

ガラスの靴を見つけだし、お城近くにいる王子に渡せば魔法使いが現れ、牢獄から2人を復活させる事ができる。

復活者の賞金の半分を復活させた者は獲得できる。

そして、

ガラスの靴の場所を知っているのは・・・

とけいウサギ「大変だ！大変だ！大変だ！大変だーっ！」

町の中を走り回っているとけいウサギだけである。

美砂「…行かなきゃ！私助けてもらったから、今度は私が助けるんだ！」

夕映「さっき助けてもらいましたし…行くです。」

都「さっき言ったとおり、ミッションやります！」

明日菜「行きたいけど…場所がわかんない…」

紀梨乃「サヤ捕まっ たしなあ…行こっ か。」

続々とミツ ションに参加する逃走者…

現在残り時間およそ45分…

ミツ ション終了まで

およそ10分…

とけいウサギ「大変だ〜！」

とけいウサギを見つけたし、ガラスの靴を見つけられるのか…

MISSION 3 (1) (後書き)

ミッションをクリアし、
復活させることはできるのか・・・

MISSION 3 (2) (前書き)

誰がとけいウサギを見つけガラスの靴を手に入れるのか・・・

MISSION 3 (2)

和美「…あれ？王子様？」

裕奈「ええ〜！いいんちょじゃん！」

家来「無礼だぞ！この国の王子に向かって何という！」

王子「そう怒るな。いまはガラスの靴がさきだ！」

アキラ「…あそこにいるのって。」

和美「那波さんだ！」

魔法使い「オホホ、人違いじゃないですか？私はただの魔法使いです。」

まき絵「え？魔女じゃなくて？」

魔法使い「冗談にしてはひどいんじゃない？？」

牢獄全員「ひっ！ごめんなさい。」

魔法使い「わかればいいんです。」

ネギ「…とけいウサギって…不思議の国のアリスのウサギでしたっけ。」

ミッションのため、

とけいウサギをさがすネギ・・・

そこに・・・

紀梨乃「あれ？ネギ君だよね。」

紀梨乃だ・・・

ネギ「千葉さん。ミッションですか？」

紀梨乃「うん。とけいウサギって森にいないのかな？」

とけいウサギは町の中だ・・・

森の中にはいない・・・

ネギ「僕はもう少しここを探します。千葉さんは・・・」

紀梨乃「私は町に行ってみる。」

ネギ「では、がんばってください。」

紀梨乃「うん！」

2人は別の方向に向かう・・・

紀梨乃「……最年少なのに律儀だなあ。」

律儀な最年少・・・

ネギ「…気をつけないと。……ハンターでしょうか？」

ネギが見つけたのは……

ハンター……

ネギ「……隠れないと。」

身を隠すネギ……

しかし、

ピーーーーー

見つかった……

ネギ「わっ！来た！」

逃げるネギ……

そこに……

夕映「とけいウサギはどこですか？」

夕映だ……

ネギ「夕映さん！ハンター！」

夕映「え！？うわー！」

夕映も巻き添えだ・・・

そして、

ハンターの標的がネギから夕映に変わった！

ピーーーーー

夕映「うわっ！うわーっ！」

ボワン

綾瀬夕映確保

残り8人

残り時間43分50秒

夕映「……中田さんを助けられませんでした。」

志半ばで散る・・・

一方、

ネギ「ハア…ハア…夕映さんは？」

夕映を心配するネギ・・・

しかし、

逃げた先に・・・

ネギ「！うわーっ！！」

別のハンター・・・

ネギ「あつ、もうダメだ...」
ボワン

ネギ・スプリングフィールド確保

残り7人

残り時間43分17秒

ネギ「ハア...速い...捕まってしまいました...」

男子全員確保された・・・

明日菜「ネギが捕まった!」

紀梨乃「さっき話してたのに!?!」

古菲「リーダーが捕まったアル。」

亜子「...いた!とけいウサギちゃう?」

とけいウサギを見つけた亜子・・・

とけいウサギ「大変だ!大変だ!」

亜子「待って...」

とけいウサギ「たいへん?」

亜子「!?!あれ!?!風香ちゃんやん。」

とけいウサギ「え?誰それ?」

亜子「ちゃうの?…とけいウサギさん?」

とけいウサギ「うん!」

亜子「そなんや。聞きたいことがあるんやけど?」

とけいウサギ「なになに?」

亜子「ガラスの靴ってどこ?」

とけいウサギ「(ギクツ)…え、なんで?」

亜子「知ってるって聞いたから…」

とけいウサギ「え…と…果物屋さんの…」

亜子「うん。」

とけいウサギ「植木鉢の中…」

亜子「ありがとう!」

場所を聞き出した亜子…

お礼を言いすぐに向かう…

とけいウサギ「…大変だ!大変だ!」

とけいウサギは再び町の中を駆けまわる・・・

そして、そこに・・・

紀梨乃「着いた着いた。」

紀梨乃が町の中に入った・・・

紀梨乃「え〜と、とけいウサギは〜〜！あれかな？」

すぐに発見した！

紀梨乃「とけいウサギさ〜ん。」

とけいウサギ「！……？」

紀梨乃「あの…ガラスの靴ってどこですか？」

とけいウサギ「（ギクツ）…な、なんで？」

紀梨乃「知っていると聞いたから。」

とけいウサギ「え…と……町の北の入り口の柱の影…」

紀梨乃「わかった。ありがとう！」

すぐさま向かう紀梨乃・・・

しかし、先ほどを思い出して欲しい・・・

とけいウサギ『え…と…果物屋さんの…』

亜子『うん。』

とけいウサギ『植木鉢の中…』

亜子には果物屋の植木鉢の中と言ったのに対し、
紀梨乃には町の北の入り口の柱の影と言った・・・

そして、

亜子「あつた！果物屋さんや。」

紀梨乃「入ってきたところにあつたんだ。」

その場所に着いた2人・・・
とけいウサギが2つの場所を言った理由・・・

亜子「このな…か…」

紀梨乃「あつ！あつ…た…」

それは・・・

亜子「うそ………」

MISSION 3 (2) (後書き)

ガラスの靴が割れていた!?
その理由とは?

ミッション終了まで
およそ5分・・・
どうなってしまうのか・・・

MISSION 3 (3) (前書き)

ガラスの靴を見つけた亜子と紀梨乃・・・
しかし、

ガラスの靴は割れていた！

MISSION 3 (3)

亜子「割れとる！なんで？なんで？」

紀梨乃「どーして？ガラスの靴が半分に！？」

ガラスの靴が半分に割れていた！

いったいなぜ・・・

時はさかのぼる・・・

魔女がガラスの靴を隠したとき・・・

それを見ていたのは・・・

とけいウサギだ・・・

とけいウサギ「？…なにやってるんだろっ？」

魔女がいた場所に向かうとけいウサギ・・・

とけいウサギ「わっ！すごい！ガラスで出来た靴だ！」

ガラスの靴を発見した・・・

とけいウサギ「……はいてみたいなあ。」

そう言うと、とけいウサギがガラスの靴を履こうとする。

とけいウサギ「……足の大きさ違つから履けないや。」

そのとき、

ピシッ！！

とけいウサギ「！！……えっ？……まさか」

ガラスの靴が半分に・・・

割れた・・・

とけいウサギ「……………大変だ——————っ！！！！

！！」

そう言うと、

ガラスの靴半分だけ持つて果物屋さんの植木鉢に隠したのだ・・・

とけいウサギ「大変だ！大変だ！大変だ！」

本当に大変なことをした・・・

亜子「どないしょ……」

紀梨乃「ミッション……えっ？どうしたら……」

2人が困りはてる・・・

そのとき、

??『すいませ〜ん。』

亜子、紀梨乃「!!」

亜子「えっ!?!だれ?」

紀梨乃「だれ?だれの声?」

??『わたしは魔法使いです。お困りですか?』

亜子「魔法使い…ってシンデレラなの?」

紀梨乃「…!ガラスの靴をシンデレラに渡した人ですか?」

魔法使い『はい、そうです。』

亜子「!魔法使いさん!じつは、ガラスの靴が…」

紀梨乃「じつは、ガラスの靴が…」

亜子、紀梨乃「割れていて…」

亜子「どうしたらええか…」

紀梨乃「どうすればいいんですか?」

魔法使い『あらあら、…では、2人とも。』

亜子「2人？」

紀梨乃「もう1人いるの？」

魔法使い『お城まで来なさい。私はそこにいますから。』

亜子「お城……」

紀梨乃「はい、わかりました。」

2人はこれから魔法使いがいるお城に向かう……

都「……いないよ。……どこだよっ！もうっ！」

とけいウサギを見つけれない都……
相当イライラしているようだ……

そこに……

茶々丸「……宮崎さんですね。」

茶々丸も来た……

都「…あれは茶々丸さんだっけ？」

都も気付いた……

都「茶々丸さん！ガラスの靴みつけました？」

茶々丸「いえ、まだです。」

都（ほっ、良かった。）「見つからなくて。とけいウサギ…」

茶々丸「私も探しているんですが…」

2人は森の中・・・
とけいウサギはいない・・・

茶々丸「ここにはいないのではないのでしょうか。」

都「えゝ、じゃあ、町の方かな？」

茶々丸「もしかしたら…！ハンター来ました！」

都「嘘でしょっ！」

とけいウサギではなくハンターを見つけた2人・・・

ピーーーーー

見つかった・・・

ハンターが視界に捕らえたのは・・・

茶々丸「……………！」

茶々丸だ・・・

ロボットVSサイボーグ再び・・・

今度はどうだ・・・

茶々丸「…………速い…………これはダメかも」

サイボーグがロボットに・・・

追いついた・・・

ボワン

絡繰茶々丸確保

残り6人

残り時間39分48秒

勝者、ハンター・・・

茶々丸「…………やはり、ダメでした。」

都「あつ！茶々丸さんが！」

古菲「捕まったアルか!？」

紀梨乃「お城に急げっ！」

鞘子「…あつ！キリノだ！」

和美「来たっ！」

ハルナ「ガラスの靴は？」

紀梨乃「着いた…」

裕奈「やった！はやく王子に！」

紀梨乃「…ちよつと無理。」

鞘子「ええっ！？なんで？」

紀梨乃がガラスの靴を見せる・・・

牢獄全員「…………ええ—————っ！！！！！！！！！！」

和美「割れてるじゃん！」

裕奈「無理だよ！これ」

牢獄内でやいやい言ってるとき・・・

魔法使い「来ましたね。」

紀梨乃「この声…魔法使いさん？」

魔法使い「オホホ、そうです。」

紀梨乃「割れた靴持ってきました。」

魔法使い「あと1つあればなんとかできます。」

紀梨乃「あと1つ！」

亜子「いそがな！」

もう1つの靴をもつ亜子・・・

ミッション終了までおよそ2分・・・

亜子間に合うのか・・・

MISSION 3 (3) (後書き)

亜子は無事にお城にたどり着くことができるのか？

MISSION 3 (4) (前書き)

時間が迫る・・・

亜子は間に合うのか・・・

MISSION 3 (4)

亜子「お城近くやのに…怖くて…近付けへん…」

半分のガラスの靴をもつ亜子・・・

お城までもうすぐだが、

見えないハンターのせいで近付けない・・・

美砂「いたっ！とけいウサギ！」

ようやくとけいウサギを発見した美砂・・・

美砂「とけいウサギ〜っ！…あれ？風ちゃん？」

とけいウサギ「？だれそれ？」

美砂「…え〜と、ガラスの靴ってどこ？」

とけいウサギ「（ギクツ）え？」

美砂「？いや、ガラスの靴の場所を教えてほしいんだけど…」

とけいウサギ「…果物屋さんの植木鉢の中…です。」

美砂「わかった。ありがとう」

しかし、

すでにガラスの靴は・・・

紀梨乃と・・・

紀梨乃「…まだかなあ？ハンター来てないよね？」

亜子が・・・

亜子「怖い……」

持っている……

古菲「もう時間ないアル……」

都「とけいウサギ見つからない！」

明日菜「…完全に迷った。」

美砂「…あれ？ない…誰か持ってたのかな？」

ミッション終了まで残り1分

亜子「……行く！」

ついに亜子が動いた！

亜子「間に合って……」

魔法使いの近くには

王子がいる！

ガラスの靴を復元できればすぐにミッションをクリアできる！

紀梨乃「…来た！」

裕奈「あっ！亜子だ！」

和美「靴持つてる！」

ようやくお城にたどり着いた！

亜子「靴！どうしたら…って那波さん？」

魔法使い「那波さんじゃないわよ。」

ミッション終了まで残り30秒

魔法使い「くつつけて。」

紀梨乃、亜子「はい…」

すると、

ピカーッ

亜子「靴が！」

光がおさまると…

紀梨乃「！元に戻ってる！」

魔法使い「さあ早く王子様に……」

亜子、紀梨乃「はい！」

ミッション終了まで残り15秒

亜子「王子様ーっ！」

紀梨乃「ガラスの靴です！」

王子「！誠か！」

亜子「あれっ？いいんちょ……」

紀梨乃「どうぞっ！」

王子「確かに！2人ともありがとう！」

ミッションクリア

魔法使い「良かったわ〜。」

亜子「魔法使いさん。」

魔法使い「これであの子も……」

紀梨乃「？…あの子？」

魔法使い「いえ、さああなた方にお礼をしないと…なにがいいですか？」

紀梨乃「復活させたい人がいます！」

魔法使い「わかりました。…あつ！」

亜子「？…どうしたんですか？」

魔法使い「…2人。どうしましょう。2人いるので、1人ずつしか…」

亜子「！そつか。2人しか復活できひんから。」

紀梨乃「1人で1人しか復活できないんだ。」

王子「いや。」

亜子「いいん…やなくて、王子様。」

王子「私もお礼がしたい。この牢獄から2人出してあげよう。」

紀梨乃「…ということは。」

亜子「4人復活できるってことですか？」

牢獄全員「やった〜！」

魔法使い「では、あらためて…誰を牢獄から出しましょうか。」

紀梨乃「私は…サヤとユージ君！」

鞘子「やった！」

勇次「ありがとうございます！」

亜子「ウチは……アキラと裕奈！」

アキラ「…私！？」

裕奈「やった〜！またゲームに参加できる！」

魔法使い「では、4人…復活したまえ〜。」

ポンッ

魔法使いの魔法で

牢獄から外に出れた4人！

鞘子「…やった！ありがとう〜。」

勇次「さあ、がんばるぞ！」

アキラ「亜子…ありがとう。」

裕奈「復活したからには、がんばらにやいとな〜。」

明石裕奈

大河内アキラ

桑原鞘子

中田勇次 復活

残り10人

ピリッピリッピリッ

明日菜「！メール？」

メールだ・・・

明日菜「…『ミッション結果』」

都「『和泉亜子と千葉紀梨乃の活躍でガラスの靴は王子のもとに戻り、』」

美砂「『明石裕奈、大河内アキラ、桑原鞠子、中田勇次が復活。』
！良かった中田さん復活した。」

古菲「『残り10人』…一気に人が増えたアル。」

シンデレラ「…買い物はこれでよしっ…と…王子様…もう1度会いたい…」

王子「…どこにもいない…いつたどこにいたんだ。」

そこに・・・

シンデレラ「？…！王子様！」

王子「！君は…まさか！？」

シンデレラ「えっ？」

王子「舞踏会で会った…」

シンデレラ「……いえ、人違いでは…私舞踏会など行ったことありません。」

王子「なら、これを履いていただけませんか？」

シンデレラ「！それは…」

王子が出したのはガラスの靴。

王子「あなたでは無いと言っならそれを証明していただきたい。…さあ。」

シンデレラ「……履けません。」

王子「…なぜ。」

シンデレラは
持っていたカゴの中から
あるものを取り出した・・・

王子「…やはり、君だったんだ。」

それはもう1つのガラスの靴でした。

シンデレラ「……はい。」

王子「どうして、あんな嘘を？」

シンデレラ「私は見てのとおり、本当は着る服はボロボロで、身分だって低いです。そんな私が王子様と踊ったなんて知れたら…」

王子「そんなことは関係ない！」

シンデレラ「！！」

王子「わたしは、あの日からあなたを忘れられません。身分の違いなど問題ない。わたしは…あなたが…好きです！」

シンデレラ「！！！」

王子「それだけです。それだけではダメですか？」

シンデレラ「…私もはじめてあつてから、忘れたことはございません…本当に、こんな身分も低くて、服もボロボロな私なのに…こんな私でもあなたを愛していいんですか？」

王子「はい！」

抱き合う2人。

シンデレラ「グスッ…私…いま幸せです。」

王子「私もです。」

こうして、

シンデレラは王子と再会をはたし、後に結婚することになりました
とき・・・

しかし、

魔女「また失敗…どうして…」

魔女は・・・

魔女「まだ…まだだ！次こそは！」

あきらめてなかった・・・

MISSION 3 (4) (後書き)

魔女はまだあきらめていない・・・
なにが起こるのか・・・

牢獄DEトーク3（前書き）

牢獄に残された者達が語る・・・

牢獄DEトーク3

おとぎの国の中央にある
お城付近に設置された
牢獄では・・・

美空「いいつすねゝ復活出来た人は…」

和美「しょうがないって、こればかりは。」

ネギ「がんばってほしいですね。」

ハルナ「まっ、そうね。これですぐ捕まったら最悪だけど。」

和美「それは…1人くらいは、いそうだね。」

さよ「確か…自首を狙ってた方復活しましたよね。」

段十郎「…そういえば。」

鞘子「ハックシュン!…?…ハンターいないよね。」

さよ「自首するんでしょうか…」

美空「したらしたでゆるせないっす。」

鞘子「よしっ、自首しよ。」

和美「そんなことしたら罰あたるんじゃない？」

夕映「ともかく、私たちはことの成り行きを見守るしかないわけですから。」

茶々丸「その通りです。」

古菲「あと23分…もうすこしアル。…だれアル？」

森を歩く古菲が見たのは…

鞘子「教会はあっちだね。」

教会を目指す復活したばかりの鞘子だ…

古菲「ハンターじゃなかったアル…」

しかし、うしろから…

古菲「?…ハンター来たアル！」

鞘子「!!嘘でしょっ。」

古菲の声を聞いた鞘子も逃げる…

古菲「あーっ!待つアル!待つアルーっ!!」

ボワン

古菲確保

残り9人

残り時間22分26秒

古菲「…悔しいアルーっ!!」

叫びがこだまする・・・

鞘子「…ヤバイよ。どうしよう。」

自首へ向かう鞘子・・・

鞘子「もう少しだったのに。」

教会から離れてしまった・・・

明日菜「……………」

道に迷った明日菜・・・

彼女が今いるのは・・・

明日菜「なんでいまになって花畑に……」

MISSION2のキーとなった花畑だった・・・

都「またミッションでできなかった……」

ミッションに参加するも結果を出せなかった都・・・

都「今度こそ！今度こそは・・・」

再び闘志を燃やす・・・

鞘子「やつともとの場所に戻れた。」

自首を狙う鞘子・・・

鞘子「・・・！ヤバイよ。いる・・・」

目線にハンター・・・

ハンターは気付いていない・・・

鞘子「どうする？どうする？どうしよう・・・」

パニックに陥る鞘子・・・

動くことができない・・・

鞘子「こっち来ないで・・・こっち来ないで・・・」

ピーーーーー

気づかれた・・・

鞘子「いやぁーっ！来たーっ！」

ピーーーーー

鞘子「もういやぁーっ!!」

ボワン

桑原鞘子確保

残り8人

残り時間20分59秒

鞘子「……もういや。」

和美「……教会付近にて、桑原鞘子確保。」

牢獄全員「えーーーーっ!」

美空「マジっすか!」

ハルナ「5分もたってないよ!」

木乃香「教会付近で言うことは自首しようとしたんかなあ?」

刹那「その可能性が高いですね。」

紀梨乃「…何してんのサヤ…早すぎだよ。」

鞘子「みんなに何か言われそう…」

すでに言われている…

そして、

お城にはある人物が遊びにきていたのだった・・・

魔女「今度こそは…」

魔女がその人物を狙う・・・

牢獄DEトーク3（後書き）

魔女の次のターゲットとはいったい誰だ・・・

ゝ眠れる森の美女ゝおとぎの国の事件ゝ（前書き）

魔女が動く・・・

そして・・・

く眠れる森の美女くおとぎの国の事件く

ある国のあるお城に1人のお姫様が遊びに来ていました。

お姫様は数日前まで森の中で呪いによって眠りについていました。

しかし、

その呪いが解けて

無事に目覚めることができました。

姫「…せっかく目が覚めて遊びに来たのにー。王子様いないなんて…」

王子は町に出かけていて、お城にはいませんでした。

姫「…でも、王子様が幸せならいいか。」

王子とシンデレラのことを聞いていたお姫様は2人のことを応援していました。

しかし、

??「ふふふ」

姫「!?!?だれ?」

そこに現れたのは・・・

魔女「ふふふ…久しぶりね。」

姫「……どなたですか？」

ズデッ

魔女「魔女だ！魔女！」

姫「あゝ、私に呪いをかけた……」

魔女「そうだ！」

姫「久しぶりですね。お元気ですか？」

魔女「…相変わらずか。その性格は……」

姫「はい？」

魔女「まあいい。お前にあの時の呪いをまたかけてやる！」

姫「！えっ！？」

魔女「今度こそ永遠なる眠りをお前に与えよう。」

姫「……」

魔女「どうした。恐怖で声も出ないか？」

姫「ねえ。」

魔女「なんだ？」

姫「どうしてこんなことするの？」

魔女「こんなこと？」

姫「みんなを困らせること。」

魔女「…どうして？」

姫「うん。」

魔女「…どうして。」

姫「答えられない？」

魔女「う、うるさい！！そんなことはどうだっていい！お前には呪いがかった！糸車の針にさされば、再び永い眠りにつくぞ！」

姫「…わたしはいいよ。」

魔女「！！な、なにがだ！」

姫「呪いにかかっても気にしないから。」

魔女「！！」

姫「約束して。」

魔女「約束？」

姫「みんなを困らせるの、これで最後にしてね。」

魔女「!!おい!!」

姫「あ…何か…ぼーっとして…」

フツ

お姫様はどこかに姿を消した。

あとに残ったのは魔女だけだった・・・

お姫様はお城の西にある塔の頂上にいました。

しかし、

お姫様の意識はしっかりしておらず空の方を眺めてました。

そして、

東の塔の頂上には糸車がありました。

そこに、

??「ハンター10体転送。」

ハンターが転送された・・・

魔女「……………」

姫「みんなを困らせるの、これで最後にしてね。」

魔女「あの言葉…」

??『みんなを困らせないで！困らせるのは私だけにして！』

魔女「…何なんだ。いつたい…頭に残るこの言葉は…」

??「……………」

魔女を見つめる影…

その正体は…

く眠れる森の美女くおとぎの国の事件く（後書き）

魔女を見つめる影の正体は・・・
そして、魔女の秘密が・・・

く魔女と心やさしき少女くおとぎの国の事件く（前書き）

明らかになる魔女の過去・・・

く魔女と心やさしき少女くおとぎの国の事件く

??「久しぶりね……」

魔女「!!……お前は。」

魔法使い「魔法使いです。」

魔女「何のようだ！お姫様を助けに来たのか？ならもう遅い！すでに呪いはかかっている……残念だったな！」

魔法使い「……確かに私は助けに来たわ。お姫様を……そして、……
……あなたを！」

魔女「!!私を……だと？」

魔法使い「あなたは本当は魔女じゃないのよ！」

魔女「!?魔女じゃない？私は魔女だ！」

魔法使い「覚えてませんか？私のことを。本当のあなたは心やさしい女の子なのよ。」

魔女「……お前、まさか……」

それは少し前のお話

ある国にとっても心やさしい女の子がいました。

どんな人にも優しく、
動物たちやお花、すべてのものに優しい心を持っていました。

そんなある日、

少女「…？だれか倒れてる！」

道に倒れた人を見つけました。

少女「大丈夫ですか？」

??「…うつ……」

少女「女の人だ…ちょっと待っててください。」

少女はそう言うと

お水や薬などを持って来て女性を助け、家につれていきました。

女性「…ありがとう。訳あって倒れてしまいました…」

少女「無事で良かった。」

女性「あなたは優しいのね。」

少女「困ってる人がいたらたすけないと。」

女性「…ふうーん。」

少女「？」

女性「訂正しましょう。あなたは優しすぎる。」

少女「えっ？」

女性がそういうと、

周囲が重々しい空気になった。

女性「わたしと出会ったとき、見捨てておけば今から起こることに巻き込まれなかったのに……ね。」

バサッ

少女「……あ……まさか。」

「そう。私は魔女よ。」

少女「……」

魔女「驚いた？わよね。」

少女「……はい。」

魔女「素直な子……」

少女「何をするつもりですか？」

魔女「こうするの！」「

ビカーーーッ

少女「!まぶしっ……」

光がおさまると・・・

少女「…どうなったの?」

魔女「自分の姿を見なさい。」

少女「えっ?……うそ、この姿って…」

魔女「ふふふ…新しい魔女の誕生よ。」

少女「……」

魔女「言葉もでない?」

少女「…魔女さん。」

魔女「ん?なあに?」

少女「どうして、こんなことを?」

魔女「おもしろいからよ。」

少女「……お願いします。」

魔女「なあに?もとに戻せだつたらお断わりよ。」

少女「みんなを困らせないで!困らせるのは私だけにして!」

魔女「！なっ…」

少女「お願いです。」

魔女「どこまでお人好しなのよ！じゃあ、こうしてやる！」

ビカーーッ

少女「キャッ！」

魔女「あなたの心そのもの変えてあげる。心やさしいあなたはもういなくなる。そして、あなたは本当の魔女になるのよ。」

少女「うつ、魔女さん…」

魔女「？」

少女「私のお願い…きいてくれてありがとう。」

魔女「！？」

少女「私を…困らせてくれて…心が変われば…きっと魔女さんがみんなを困らせることは無くなるよね。」

魔女「！？違う！私はそんなつもりで…魔法をかけたんじゃない…」

少女「やっぱり私…嫌だなあ。みんなを困らせるの…魔女さん…もし私が何かしてみんなを困らせたなら…みんなを…助けてね…」

魔女「っ…どうして？…あなたもつすぐ自分が自分でなくなっちゃうのに！…どうして、人の心配ができるの？…怖くないの？」

少女「…怖いですよ…でも…みんなのことが…大好きだから…もちろん…魔女さんも…」

魔女「！…そんなっ…ダメ！やめて！…この子の心を変えないでー！っ…！」

スウーッ

光がおさまると…

魔女「…あ…ああ…」

少女「……なんでそんな顔してるの？…ありがとう。私を魔女にしてくれて。」

そこにいたのは完全な魔女となった少女だった。

魔女「そんな…間にあわなかった…」

少女「…どうして悲しい顔をするの？…あなたのおかげで生まれ変わったのに。」

魔女「っ…今もとに戻してあげる！…キャッ…！」

少女は魔法で魔女を鎖で縛り動けなくした。

少女「…すごい。魔法って便利。これでみんな困らせることができるんだ。」

魔女「ダメよ。そんなことしちゃ！」

少女「なに言ってるの？あなたも散々やったんでしょ？」

魔女「…あなたはダメ！こんなことしちゃダメ…ダメだよ…」

ポロツ…ポロツ…

少女「魔女が泣いてる？笑えるわね。決めた。あなたに代わってみんなを困らせてあげる。それじゃあね。魔女さん。」

魔女「待つて！待つて！！」

ギッ

バタンッ

魔女「うつ…うつ…私…とんでもないことを…」

魔女は自分のしたことに後悔しました。

もう心やさしい女の子はいない。

いたのは、どんな人も動物もお花も困らせてしまうことが大好きな魔女だった…

そしていま…

魔法使い「そして、私は人のために生きる魔法使いになりました。
お願い！もうこんなことはやめて！」

魔女「あなたがあの時の魔女…そういえば、そうだったわ。あなたのおかげで魔女になれたんだったわ。それなのに困らせることをやめろだなんて。無理！……あつ、さてはあなたね。私の邪魔をしたの！」

魔法使い「私がしたのは赤ずきんの家近くでなにがあっても大丈夫なように見守ったり、ウエカの花を咲かせたり、ガラスの靴のなおし方をおしえたり、お姫様の呪いを解いただけよ。」

魔女「…どうしても、邪魔するんだ…なら、もうこの国を出て別の国の人を困らせてやるんだから。」

魔法使い「させません！」

ビュン

魔女「！なっ！！箒が！」

魔法使い「箒を使ってとぶのは無理よ。おとなしく…」

魔女「諦めない！私はこの国をでるんだ！」

そう言うと、勢いよくお城を出て行きました。

魔法使い「待つて！…お姫様の呪いが強力になってた…あの子をなんとかしないと、お姫様の呪いは解けない…」

魔女「南の門をぬければ、あいつも追ってこないだろう。」

そして、謎の存在が・・・

??「ハンター10体転送」

門の向こう側に10体のハンターが転送された・・・

逃走者に新たなミッションが立ち上がる！

く魔女と心やさしき少女くおとぎの国の事件く（後書き）

波乱のミッションが始まる・・・

MISSION 4...? (前書き)

ミッションが始まる・・・
しかし、予想しない展開が・・・

MISSION 4…?

明日菜「もっ…町はどこ？」

ピリッピリッピリッ

明日菜「わっ!？」

メールだ・・・

明日菜「びっくりするって…ミッション4だ。」

裕奈「『お城の西の塔の頂上にお姫様がいる。お姫様は残り10分になると、』」

勇次「『東の塔の頂上に入りハンターを10体エリアに放出する。』
!10体!？」

美砂「多いよ!10体は…『阻止するには、君たちが持つ鍵を使って鍵をかけなければならぬ。急ぎたまえ。』」

MISSION 4

10体ハンター放出を阻止せよ!

お城にある西の塔の頂上にはお姫様がいる。

お姫様は糸車を目指して東の塔に向かう。

残り10分に東の塔に到着するとハンターが10体エリアに放出される。

阻止するには、

逃走者の持つ鍵をつかい、東の塔に鍵をかけなければならない。

アキラ「とりあえずお城に行かないと。」

紀梨乃「10体はキツイよ。」

だが、

これはまだ序の口だった・・・

ピリリッピリリッピリリッ

亜子「なに？」

メールだ・・・

亜子「だれか捕まったん？…うそ…ミッション5？」

裕奈「えっ！？もう1つミッション！？」

紀梨乃「『魔女が南にある門を抜けて国から逃げようとしている。』

」

亜子「『しかし、門が開けば10体のハンターがエリアに放出される。』ええ～！また10体！？」

都「さつきとあわせて20体？うそでしょ？『阻止するには、町にいる門番から錠をもらい鍵をかけなければならない。』」

明日菜「…えっと、どういうこと?」

MISSION 5

南の門を閉じる!

魔女がこの国から逃げるために南の門を目指す。

残り10分になると、

魔女が門を開けてハンター10体をエリアに放出する。

阻止するには、

町にいる門番から錠をもらい鍵をかけなければならない。

美砂「2つのミッション!?どっちも止めないとヤバイ。けど、ど
つちも行くななんて出来ないよ。」

南の門とお城までの距離はかなりあるため、

2つのミッションを1人でやるのはほぼ不可能だ・・・

ゲーム終了まで

およそ20分・・・

ミッション終了まで

およそ10分・・・

逃走者たちの運命は・・・

MISSION 4...? (後書き)

史上初ダブルミッション！
この展開に逃走者たちは
どうするのか・・・

MISSION 4 & 5 (1) (前書き)

クライマックスに近づきました。

みなさんお待ちせして

申し訳ございません。

前代未聞のダブルミッションに逃走者はどう挑むのか・・・

MISSION 4 & 5 (1)

都「…お城…お城に行こう！門は任せよう。」

亜子「お城の方が近いし…お城に行こ。」

紀梨乃「偶然にも城の庭園…近い方に。」

都、亜子、紀梨乃は
お城のミッションへ…

アキラ「…門の方が大変そうだから、町に行こう。」

裕奈「門番探さなきゃ！」

勇次「お城は誰が行ってるはずだから…門番の人を探そう！」

美砂「……ここ町だし…門番を探して早く門閉じないと……」

アキラ、裕奈、勇次、美砂は門のミッションへ向かう…

だが…

明日菜「…お城…町ってどこ？」

明日菜はまだ道に迷っていた・・・

牢獄では・・・

和美「こんなの初めてだよ！ミッションが同時に2つ来るなんて！」

まき絵「どうなっちゃうの？どうなっちゃうの？」

夕映「厳しいとしか言えませんね…クリアするには連携が必要かと…」

木乃香「かなりきびしいなあ」

紀梨乃「急ごう！1つクリアすれば、もう1つの方にみんな集中できるし。」

お城のミッションに挑む紀梨乃・・・
ミッションへの作戦を考えている・・・

紀梨乃「鍵は最初のミッションのだよね…」

しかし・・・

近くにいたハンターが紀梨乃を見た・・・

だが・・・

紀梨乃「急がないと！」

紀梨乃はハンターに気づいていない・・・

距離が縮まり・・・

ピーーーーー

紀梨乃「……………！わっ！？」

ボワン

千葉紀梨乃確保

残り7人

残り時間18分44秒

紀梨乃「……………うそ……………気づかなかった。」

ハンターの注意を考えてなかった・・・

都「えっ、うそ！庭園付近で！？」

勇次「部長が捕まった…」

裕奈「ヤバすぎる…いや、急がないとダメだって！」

都「もう近くなのに、ハンターがいるってわかつちやったから…」

確保情報を知ってから動けなくなってしまった都・・・

亜子「…どないしょ。怖い…」

亜子も同じだ・・・

明日菜「！！やった！町だ！」

ようやく森から抜け出た明日菜・・・

明日菜「え〜と…門番を探しに行けばいいのよね？」

南の門のミッションに挑むようだ・・・

都「…行かなきゃ、何も出来ない！よしっ！」

お城の中を目指す都！

一気に走り抜ける！

都「……やった！入れた！塔の入口は？…こっち？こっちだ。E A
STって書いてる。」

扉は階段の先にある・・・

都「この階段をのぼるの？」

階段はかなりある・・・

勇次「…門番ってどんな人だろう。」

町の中にいた勇次・・・

門番を探すが、誰が門番かわからない・・・

美砂「考えたら、門番ってどんな人が知らなかった。どの人だろう
・・・」

同じように悩む美砂・・・

勇次「うーん、あの人に聞いてみるか・・・」

町の人に尋ねる勇次・・・

勇次「すみません。」

??「ん？」

勇次「！えっ！？・・・先生？」

??「先生？俺は先生じゃないよ。ただの門番だ。」

勇次「えっ！？」

なんと、

尋ねた人が門番だった！

勇次「あの、南の門の門番なんですか？」

門番「ああ、そうだが・・・」

勇次「突然なんです、錠をいただけませんか？」

門番「錠？…なぜだ。」

勇次「魔女がこの国から逃げようとしてるんですよ。それを阻止しない…」

門番「なんだって！？それは一大事だ！」

勇次「そうなんですよ！」

門番「錠だな？魔女対策用のは…こいつだ。」

勇次「これですか？」

中田勇次　錠入手

門番「これさえ取り付ければ大丈夫だ。」

勇次「ありがとうございます！」

南の門へ急ぐ勇次！

ミッション終了までおよそ7分

果たして、

ミッションは成功するのか？

MISSION 4 & 5 (1) (後書き)

順調にことが運んでいる・・・
だが・・・

MISSION 4 & 5 (2) (前書き)

ミッションに挑む逃走者たち・・・
このままクリアできるのか・・・

MISSION 4 & 5 (2)

都「…まだ…階段が…続いてる…の？」

疲労困憊状態の都・・・
頂上までもう少しだ・・・

勇次「南の門…こっちか…」

門番から錠をもらった勇次も門へと向かう・・・

アキラ「…門番って…どこだろう。」

門番を探すアキラに・・・
近づく影・・・

アキラ「……！！キャッ！！」

明日菜「わっ！！」

明日菜だ・・・

アキラ「…ビックリした。」

明日菜「ビックリした～もう～」

アキラ「…明日菜も門番探してるのか？」

明日菜「え？アキラも？」

アキラ「こっちにそれっぽい人はいなかったけど…明日菜は？」

明日菜「わたしは…森から出たばかりだから…」

アキラ「じゃあ、あつちを…！！ハンター…！」

明日菜「わっっ！！！」

ハンター急接近…

ピーーーーー

アキラ「…！」

ハンターが視界に捕らえたのは…

ピーーーーー

明日菜「来ないでっ！いやっ！！！」

ボワン

神楽坂明日菜確保

残り6人

残り時間15分45秒

アキラ「危なかった…」

明日菜「……わたし……なにもできなかった……」

足しか引つ張つてなかった・・・

裕奈「あちゃゝ、明日菜・・・」

アキラ「明日菜・・・捕まった・・・」

美砂「・・・あの人・・・門番の衣装っぽい・・・」

美砂が見つけたのは・・・

美砂「あの・・・」

??「?・・・なになな?」

美砂「あれ!?!今度は高畑先生?」

??「高畑?誰だい?」

美砂「え・・・と・・・門番さんですか?」

門番「いかにも、僕が門番だが・・・」

もう1人の門番だ・・・

美砂「!やった!!あの・・・錠をください!」

門番「錠?・・・なんでまた。」

美砂「え〜と、魔女がこの国から逃げ出そうとしてて…」

門番「…なるほどね。わかった。……魔女対策用の錠だよ。」

柿崎美砂 錠入手

美砂「やった。ありがとうございます！」

門番「あつ、待った！」

美砂「？…はい？」

門番「じつはこの錠2つないと効果がないんだよ。」

美砂「え！？2つ！？」

じつは、

勇次と美砂の持つ錠は2つそろってはじめて効果が
あらわれるものであり、

1つだけでは全く意味がない。
しかも・・・

美砂「え？もう1つは…」

門番「すまないけど、僕ら1つずつ管理してるから…」

門番は錠を1つしか持っていない・・・

美砂「…ということはもう1人探さなきゃいけないの？」

いや・・・

勇次「…時間…ヤバイな。」

もう1つは勇次が持っている・・・

しかし・・・

門番A「あつ！！やべつ！！もう1つ錠が必要って言うの忘れてた！！！」

勇次は錠がもう1つ必要なことは知らない・・・

美砂「…あれ？ひょっとして…この錠なくしたら…ミッションクリ
アできない？」

その通り・・・

門番が持つ錠は1つずつ・・・

失くすことはできない・・・

責任重大だ・・・

美砂「…どうしよう。急に緊張感が…」

プレッシャーのせいか震えだす美砂・・・

クリアできるのか・・・

都「…はあ…やっと着いた。」

ようやく東の塔の頂上にたどり着いた都・・・

都「鍵穴は…あつた！」

カチツ…

都「やった！」

ミッションクリア・・・

都「…あれ？最後まで鍵がまわらない？なんで？」

では、なかった・・・

都「なんで？…！えっ、まさか！」

都が何かを見つけた・・・

それは・・・

都「鍵穴もう1つある…」

もう1つの鍵穴だった・・・

都「……………もしかして、鍵2つないと鍵からない？」

じつはこの扉・・・

泥棒よけなどもかねて、

鍵を2つにわけていた・・・

ゆえに、

2つないと鍵を開けることもかけることもできない・・・

都「どうしよう…誰かに来てもらうしか…」

そのとき・・・

??「着いた!…あれ?もう終わりました?」

都「!!あつ!和泉さんよね。」

亜子「はい…」

亜子が頂上にたどり着いた!

都「鍵!鍵出して!!」

亜子「は、はい…」

都「そっちの鍵穴をおねがい!」

亜子「はい…」

事情も知らないまま、

都にしたがう亜子・・・

都「行くわよ。」

亜子「はい……」

都「せーのっ！！」

カチャンッ

ミッションクリア

都「鍵……かかった！……はぁ、良かった……」

まさに、渡りに船だ……

亜子「……えーと、クリア……したのかな？」

ミッションクリアだ……

都「ありがとう。助かったわ。」

亜子「え？いえ……もう……行きますね。」

都「うん……わたしもう少しここで休む。」

亜子「はい……それじゃあ……」

別れる2人……

これで2つのミッションの内、1つがクリアとなった……

残るミッションもクリアできるのか・・・

ミッション終了まで4分をきった・・・

MISSION 4 & 5 (2) (後書き)

ミッションを1つクリア・・・
もう1つもクリアできるのか・・・

MISSION 4 & 5 (3) (前書き)

東の塔をクリアした逃走者たち・・・
残るは南の門・・・

MISSION 4 & 5 (3)

美砂「……どうしたらいい？時間が迫ってるし……錠持ってるし……もう1つないと意味ないし……」

プレッシャーのせいか、

パニックになりつつある美砂……

ピリリッ

美砂「！……もう……なに？裕奈だ。」

ピッ

美砂「もしもし？」

裕奈「ねえ、錠手にいれた？」

美砂「うん、持ってるよ。」

裕奈「じゃあ、もう大丈夫じゃん。」

美砂「待って待って！」

裕奈「なに？」

美砂「もう1つないと意味無いんだって。」

裕奈「えっ！？もう1つ必要ってこと？」

美砂「そう。だから、裕奈も探して!」

しかし・・・

ハンター・・・

裕奈「わかった!」

美砂「お願いね!」

ピーーーーー

見つかった・・・

ハンターが視界に捕えたのは・・・

裕奈「:!!ヤバイ!!」

ピッ

美砂「あれ?切れた:」

裕奈だ・・・

裕奈「イヤァーッ、やめてーーーーっ!!イヤッ!!」
ボワン

明石裕奈確保

残り5人

残り13分29秒

裕奈「く〜や〜し〜っ！せっかく、復活したのに！！」

美砂「どうしよう…裕奈も捕まっちゃったし…」

電話していた矢先の出来事に動揺する美砂・・・

美砂「…やだ…もうやだよ」

かなりヤバい状態だ・・・

アキラ「…電話を。」

電話の相手は・・・

ピリリッ

勇次「ん？」

勇次だ・・・

ピッ

勇次「はい。」

アキラ「大河内です。ミッションどっち行ってます？」

勇次「門のほうに今向かってます。」

アキラ「えっ？じゃあ錠も…」

勇次「門番さんから1個もらいましたよ。」

アキラ「わかりました。がんばってください。」

勇次「はい。」

ピッ

アキラ「…中田さんやってた。」

だが、

2人とも錠が2つないと

クリアできないことを知らない…

亜子「…門は大丈夫なんかなあ？」

東の塔のミッションをクリアした亜子…

まだ城の中にいた…

亜子「…あれ？…あの人がお姫様？どっかで見たような？…ま
あ、ええか。」

都「…そろそろ出発しよう。」

休憩をとっていた都もようやくお城を出ようとしていた…

都「出てすぐハンター来たら最悪だなあ」

アキラ「……あれは？」

アキラの視線の先にいたのは・・・

美砂「…もうやだよ。」

美砂だ・・・

アキラ「…柿崎？」

駆け寄るアキラ・・・

アキラ「柿崎？」

美砂「！！…アキラか…」

アキラ「どうした？」

美砂「…もうやだあ」

アキラ「？」

美砂「ミッシェンクリアできないよ、無理だよ」（泣）

アキラ「落ち着いて！なにがあつた？」

美砂「……」

アキラ「！えっ！？それって…」

美砂が取り出したのは
ミッシヨンに必要な錠・・・

アキラ「…なんで2つも？」

美砂「2つないとクリア出来ないのゝ裕奈にお願いしたら捕まっちゃうたし…どうしよう…（泣）」

アキラ「！2つ必要なのか！？」

美砂「…うん…あれ、さっき2つもって言ったよね？」

アキラ「大変だ…中田さんその事知らないんじゃない？」

美砂「中田さん？」

アキラ「柿崎！急いで、門に行こう！」

美砂「えっ！？でも…」

アキラ「中田さんが錠を持ってるんだ。急がないと本当に間に合わなくなる。」

美砂「！！中田さんが！？本当に？」

アキラ「さっき電話したから…」

美砂「…本当に？」

アキラ「本当。」

美砂「…良かった（泣）」

アキラ「いっしょにいるから、急ぐっ！」

美砂「うん（泣）」

勇次「…あれが門か。」

南の門にたどり着いた勇次・・・

勇次「……よっ！と……」

門を閉じて・・・

勇次「ここだな……」

錠をかける！

カチンッ

勇次「やった……」

ピリリッ

勇次「ん？電話？大河内さんだ。」

ピッ

勇次「はい。」

アキラ「中田さん、ミッションなんですけど…」

勇次「あつ、いま錠をかけましたよ。」

アキラ「それが、錠は2つないと効果がないみたいで…」

勇次「えっ！？2つ？」

アキラ「いま柿崎といっしょにもう1つの錠をそっちに持っていきます。あとはまかせてください。」

勇次「…わかった。僕もここで待ってる。がんばって！」

ピッ

アキラ「…がんばろう。もう少しだ。」

美砂「うん。」

ミッション終了まで2分をきっていた・・・
はたして、間に合うのか・・・

MISSION 4 & 5 (3) (後書き)

時間が迫る・・・

美砂とアキラは間に合うのか・・・

逃走者たちの、

そして、

魔女とお姫様の運命は・・・

MISSION 4 & 5 (4) (前書き)

時間が迫る・・・
間に合うのか・・・

MISSION 4 & 5 (4)

ミッション終了まで1分30秒

もう1つの錠を持つ美砂・・・

美砂「はぁ...はぁ...」

そして、

アキラ「南の門までもう少しだ...」

アキラといっしょに南の門へ向かっている・・・

美砂「もう時間的に...ヤバイよね。」

ミッション終了まで1分

アキラ「大丈夫...もうすぐだ...」

勇次「...2人とも大丈夫かな？」

2人が来るのを待つ勇次・・・
間に合わなければ10体のハンターに確保される危険がある・・・

ミッション終了まで45秒

勇次「誰か来た！」

勇次が見たのは・・・

美砂たちか・・・

魔女か・・・

ハンターか・・・

アキラ「あつた！」

美砂「やった！」

美砂たちだ！

勇次「こっち！急いで！」

アキラ「柿崎、準備してる？」

美砂「大丈夫！」

ミッション終了まで30秒

美砂「…着いた！…ここね。」

もう1つの錠を

カチンッ

かけた・・・

ガチャンッ！ガチャンッ！

美砂「…これでいいの？」

勇次「…大丈夫みたいだ！」

アキラ「一応離れた方がいいかも…」

勇次「2人ともここから離れて！」

そして、

魔女「ようやく…」

魔女が現れた・・・

魔女「早くここから…」

パーツ

バチンッ

魔女「！！うっ！？門に触れない！？」

ダブルミッションクリア

そして、

東の塔でも・・・

姫「……………」

お姫様が塔の頂上に入る事が出来なかった・・・

ピリッピリッピリッ

美砂「メール？どうなった？…塔は？」

アキラ「…『和泉亜子と宮崎都の活躍により、東の塔のハンターの放出を阻止。』」

都「『柿崎美砂と中田勇次の活躍により、南の門のハンター放出を阻止。』」

亜子「ミッションクリアや！」

牢獄では・・・

和美「ダブルミッションクリア!!」

全員「おお~~~~っ!!!!」

段十郎「やったぜ！ミヤミヤ！ユージ！」

裕奈「亜子もすごい！！」

円「美砂やるじゃん……」

勇次「やりましたね。」

美砂「……良かった〜」

アキラ「……！ハンター来た！」

勇次「えっ！」

美砂「こんなときに……？」

3人の近くにハンターが……

勇次「……よしっ」

美砂「ダメ！」

勇次「えっ？」

美砂「罔なんてダメです。させません。」

勇次「……しかし。」

アキラ「……………（こっちに来てる……………だったら…）」

アキラが茂みから飛び出た！

ハンターがアキラを追う！

美砂「！アキラっ！！」

勇次「……………逃げよう。」

美砂「でも……………」

勇次「彼女の気持ちを考えて！…君もわかるはずだよ。」

美砂「……………ゴメン……………アキラ」

アキラ「……………くっ……………速いっ！」

勇次と美砂を助けるために囷となったアキラ……………

アキラ「……………もう……………大丈夫かな。」

役目を果たし、

ハンターに……………

ボワン

大河内アキラ確保

残り4人

残り9分11秒

確保された・・・

アキラ「…がんばってね。」

かつこよく散った・・・

美砂「…アキラ…ゴメンね。」

勇次「…すみません。」

残り4人・・・

ゲーム残り時間も10分をきっている・・・

逃げ切れるのか・・・

MISSION 4 & 5 (4) (後書き)

無事にクリアできた逃走者たち・・・
ゲーム終了まであと少し・・・

ゲーム終了！（前書き）

ゲーム終了です！

生き残るのは誰か？

ゲーム終了！

ゲーム終了までおよそ8分・・・
残る逃走者は4人・・・

都「……いないね。…ふう」

城から出た都・・・
ハンターに警戒中・・・

都「ここまできたんだから、逃げ切りたい！」

亜子「ウチがここまで残れるなんて…」

お城から出た亜子は森に身を潜める・・・

亜子「ハンター来んという…」

勇次「…情けないなあ…大河内さんに助けてもらって…僕が行くべきだったよなあ。」

自分よりも人のことを考える勇次・・・

アキラの確保に罪悪感があるようだ・・・

美砂「アキラ……」

美砂もまた罪悪感を感じていた・・・

美砂「私ってひどいやつだな…助けられてばかりだし…（はじめは）ミッションやろうとしなかったし…」

自己嫌悪になってる・・・

都「…残り6分ね。」

庭園に身を潜める都の近くに・・・

都「…ヤバッ！いる…」

ハンター・・・

しかし、

気づいていないようだ・・・

都「今のうちに…逃げよう…」

隙について庭園から出ようとする都・・・

しかし、

庭園の外にもハンターが・・・

都「…よし。」

都はもう1体のハンターに気づいていない・・・

都「…！うそでしょっ！？」

もう1体のハンターに気づかれた・・・

都「最悪っ！！」

庭園のハンターも都に気づいた・・・

都「もー無理じゃん！！」

あきらめた・・・

ボワン

宮崎都確保

残り3人

残り時間4分42秒

都「…ちつくしょーっ！！」

怒りの叫びだ・・・

和美「宮崎都確保！」

全員「うわ~~~~……」

段十郎「くそ~~~~っ！ハンターめ！！」

勇次「あと3人……」

亜子「離れて良かったわぁ。」

美砂「…私と中田さんと亜子だ。」

和美「このままいけば3人とも逃げ切れるんじゃない？」

裕奈「いけるいける!!」

ハルナ「3人ともがんばれーっ！」

亜子「…このまま南に行こかな？」

南に向かう亜子・・・
その先には・・・

美砂「…亜子だ。」

美砂がいた・・・

亜子「美砂やん。」

美砂「…もう少しだね。」

亜子「？元氣ないけど…どないしたん？」

美砂「…べつに。」

亜子「ほんま？」

美砂「……」

亜子「なんかあったん？」

美砂「…わたしは人に助けられてばっかしだっと思ってただけだよ…
1人じゃダメだって思っただけ…」

亜子「？」

美砂「アキラに助けられてここにいるから…」

亜子「…そやったんや。」

美砂「わたしってひどいよね…」

亜子「…ウチは。」

美砂「？」

亜子「アキラに電話かけたせいで…アキラ捕まっしてしもて…」

美砂「…そう…だったの？」

亜子「うん…それに…」

美砂「？」

亜子「ウチも1人やつたらアカンもん。裕奈がいて、アキラがいて、

まき絵がおるから…3人がおらんと…うつん、みんなおらんと…美砂にもいてほしいし…」

美砂「……（わたしも円が…桜子がいるから…それに亜子も…）亜子が頼もしく見える。」

亜子「…どういう意味や!」

美砂「えへへ…逃げ切ろう。」

亜子「…もちろんや。」

勇次「もうすぐだ。柿崎さんと和泉さんは大丈夫かな。」

人の心配をする勇次……

勇次「復活してる以上、部長のためにも逃げきらないと……」

唯一残った復活者でもある勇次……

勇次「…いる…こつちに来そうだな。」

ハンターを目撃した勇次……
見つかる前にその場を離れる……

しかし……

勇次「!来た!」

見つかった・・・

勇次「まずいぞ・・・」

ピーーーーー

勇次「……………うおっ！」

ボワン

中田勇次確保

残り2人

残り時間1分5秒

勇次「あゝっ…部長すいません…」

ゲーム終了まで1分

和美「…あっ…中田勇次確保！」

全員「え〜〜〜〜っ！！」

紀梨乃「ユージ君も捕まっちゃった？」

ハルナ「もう1分きった！！」

まき絵「2人ともがんばれーっ！！」

美砂「中田さんも捕まっちゃったから…」

亜子「ウチらだけや…」

いっしょに行動する2人…

ゲーム終了まで30秒

亜子「…もう少し。」

美砂「お願いハンター来ないで…」

牢獄全員「25…24…23…22…21…20…19…18…17…16…15」

ゲーム終了まで15秒

美砂「もうすぐ!」

亜子「もうすぐや!」

牢獄全員「14…13…12…11…10…9…8」

美砂、亜子「7…6…5…」

牢獄全員「4…3…2…1…0!!」

逃走成功

和泉亜子 96万円

柿崎美砂 96万円獲得

美砂「マジで!?!」

亜子「ホンマに!?!」

美砂、亜子「ヤッターッ!?!」

和美「『ゲーム終了。和泉亜子・柿崎美砂逃走成功』!?!」

牢獄全員「ヤッターッ!?!」

まき絵「すごーい!?!」

円「美砂ーっ!?!すごーっ!?!」

美砂「すごーい!?!」

亜子「お金…重い!?!」

美砂、亜子「96万円!?!」

美砂「獲ったぞーっ!?!」

亜子「獲ったでーっ!?!」

牢獄全員「2人ともおめでとーっ!?!」

そして・・・

おとぎの国の事件は・・・

ゲーム終了！（後書き）

亜子と美砂

おめでとーっ！

そして、

事件も完結へ・・・

ハッピーエンド〜おとぎの国の事件〜（前書き）

結末をむかえるおとぎの国の事件・・・
彼女たちの運命は・・・

ハッピーエンド〜おとぎの国の事件〜

南の門では・・・

魔女「くっ…ダメだ…」

魔女が魔法を使っても門を開けることができませんでした。

魔女「…逃げないと…でも…どこへ？」

魔法使い「ようやく追いついたわ…」

魔女「！！いつの間に！？くっ…」

ジャラッ

魔女「あうっ！？これは…鎖…」

魔法使い「観念なさい…」

魔女「う、うるさい！！お前の言うことなんか聞くんか！！こんな鎖！！」

魔法使い「……」

魔女「！？なんで？魔法が…つかえない！？」

魔法使い「あなたの魔力は私がいただきました。」

魔女「なっ!？」

魔法使い「…お姫様の呪いもこれで解けたでしょう。」

魔女「なんだと!？」

お姫様「…………あれ?わたし…どうしてこんなところに？」

魔女「そんな…………」

魔法使い「いまあなたを元に戻すわ…」

魔女「!!やめろっ!!やめてっ!!わたしがわたしで無くなるっ
…お願いだ…」

魔法使い「わたしは…元は魔女…嫌なことをするのが大好きな
の…あなたにとってもっとも嫌なことをしてあげるわ!!!!」

魔女「!!いやぁ…………っ!!!!」

ピカーーーーーッ

辺りを強い光が包みました。

そして、

そこにいたのは…

少女「…………う、うーん…………わたし…？」

心優しい少女でした。

少女「……！！あ、ああ……わたし……みんなに……」

少女はこれまで自分が魔女となり様々な嫌がることをやったことを思い出してしまいました。

少女「うつ……うつ……ごめんなさい……ごめんなさい……わたし……わたしっ！」

ギョッ

少女「！！えっ！？」

少女が顔をあげると

そこには……

少女「……魔女さん……うつん、魔法使いさん……」

魔法使いが少女を抱き締めていました。

魔法使い「ごめんなさい……私のせいで……あなたを……あなたを……傷つけてしまった……」

少女「……魔法使いさん……違うよ……全部わたしがした事だよ。魔法使いさんは……わたしがした事をなんとかしようとしてた！」

魔法使い「……（フルフル）私は所詮魔女のまま……結局……最後は……あなたを悲しませた……罪深い魔女よ……」

少女「……そんな……待って……最後って……どういう意味なの？」

魔法使い「……本当は人の心を変えてしまう魔法は禁じられた魔法なの……それを私は2回もしてしまった……もうすぐ……命が尽きるわ……」

少女「……えっ？」

ドサッ

少女「魔法使いさん……！」

魔法使い「……うっ……」

少女「わたしのために……そんなっ……そんなっ！……どうして？」

魔法使い「……あなたなら……わかるはずよ……心優しい……あなたなら……」

少女「……好きだから？」

魔法使い「……（コクッ）……初めて……」

少女「えっ？」

魔法使い「……私を……好きって……そんな言葉……言われたこと……無かったから……嬉しかった……とって……だから……あなたを……命にかえても……元のあなたに……戻すって……」

少女「……魔法使いさん……」

魔法使い「……でも……結局……わたしは……魔法に……戻
ってしまった……ごめんなさい……悲しい……思いを……
させて……」

少女「……死んじゃダメ……みんなを……幸せにする魔法使いさんで
しょ……みんな悲しむよ……だから……」

魔法使い「……（ニコリ）ありがとう……」

魔法使いの目が閉じた……

少女「……魔法使いさん？……魔法使いさん！？」

もう……

息をしていなかった……

少女「……ううっ……あのとき……わたしと会わなかったら……こん
なことに……ならなかったのに！」

少女は自分を責めた……

少女「……ごめんなさい……魔法使いさん……」ごめんなさい！

そして、

ひたすら謝り……

少女「……うえっ……ええ……ん……」

泣いた・・・

少女「……ぐすつ……神様……魔法使いさんは……わたしのために……わたしのために……命をおとしました……どうか……どうか……魔法使いさんを……助けて……」

ポロツ……ポロツ……

少女「……神様……魔法使いさんを……助けて……ください……わたしは……どうなっても……かまいません……ぐすつ……助けてください……」

そのとき、少女の涙が・・・

ピチヨンッ

奇跡をもたらした。

パァーッッ

少女「っ！……なに？」

光が魔法使いを包みこみました・・・

少女「……魔法……使いさん？」

魔法使い「……う……」

少女「……魔法使いさん！わたしだよ！わかる？」

魔法使い「…………わたし…………死んだんじゃ…………」

少女「生きてるよ…………魔法使いさん…………良かった…………良かった…………」

魔法使い「…………心配かけて…………ごめんなさい…………ありがとう…………ありがとう…………」

そして、

魔法使い「…………わたしは…………もう魔女でも…………魔法使いでもないわ。魔法使えなくなっただから…………」

少女「…………ごめんなさい…………」

魔法使い「？どうして誤るの？」

少女「わたしのせいで…………魔法を使えなくなっちゃったから…………」

魔法使い「わたしは…………後悔してないわよ。これで良かったのよ。」

少女「でも…………」

魔法使い「前にも言ったけど…………あなたは優しすぎるわ…………だけど、それがあなたのいいところだわ。魔法が使えなくても…………みんなを幸せにできる…………あなたがそれを教えてくれたのよ…………」

少女「？…………わたしが？」

魔法使い「ええ。（人と思う心を……ね。）……そういえば、あなたの名前を聞いてなかったわ。」

少女「わたしも魔法使いさんの名前を聞いてなかったです。」

魔法使い「そうだったわね。……わたしの名前は……ハート。」

少女「……わたしの名前は……ピュア。」

ハート「ピュア……いい名前ね。」

ピュア「ハートさんこそ……いい名前。」

ハート「…ピュア。わたしを助けてくれて…ありがとう。」

ピュア「ハートさんも…わたしを助けてくれて…ありがとう。」

こうして、

人を困らせるのが大好きな魔女はいなくなり、
心優しい2人、

ピュアとハートは

おとぎの国で

幸せに暮らしましたとき。

めでたしめでたし

ハッピーエンド〜おとぎの国の事件〜（後書き）

優しい心がもたらした奇跡・・・

物語はここで終わりです。

だけど、

ピュアとハートの物語は

まだまだ続くのでした・・・

謎の存在…再び…（前書き）

逃走中と物語は終わった・・・
しかし・・・

謎の存在…再び…

逃走中は終了した・・・

しかし、

この様子は・・・

??「…第2実験…終了。」

ずっと観られていた・・・

??1「今回はいかがでしたか？」

??2「…成功だ」

??1「本当ですか!？」

??2「うむ、しかし…」

??1「はい？」

??2「急がなければならなかったようだ…」

??1「!!! 奴が動くんですか!？」

??2「まだわからん…しかし、早急に対処せねばならん……Dよ。」

D「はい!!」

???2「次のプランを早めるぞ。」

D「かしこまりました。」

???2「急がねば……」

???3「P殿……」

P「む……K……いや、いまは……」

K「薬屋……ですか？」

P「先に言われたか……」

K（薬屋）「……今回に関しては彼女……Iが……」

P「Iがいなければ成り立たなかったな。」

K（薬屋）「ええ……」

P「……次のプランに移る。準備が整い次第動いてくれ……」

K（薬屋）「はい!!」

P「それと君を……」

K「？」

P「KOUと名を変えよ。ステップアップだ…」

KOU「ありがとうございます…」

静かな部屋の中・・・

先ほどの3人の声は聞こえなくなった・・・

しかし、まさか・・・

この様子を観ていた、

別の存在がいたことを

彼らは知らない・・・

??「動いたほうがいいかもね……フフフ……」

謎の存在…再び…（後書き）

魔法先生ネギま！&BAMBOO BLADE逃走中をご覧ください
きありがとうございます！

皆様のおかげで、

なんとか、完結することができました。

あいも変わらず更新が早いときがあれば、
だいぶ遅いときがありました・・・

たぶんこんな感じで

次回作もやっていくのでしょう・・・

皆様、本当に

どうもありがとうございます！

次回作予告

とあるマンガアニメのキャラがある場所に集まった・・・

??「怖いよお……」

??「ハンター……驚異的だな……」

??「ここ大丈夫かな？」

マンガアニメNから17名

マンガアニメHから6名の計23人が参加!!

??「無いよ……どこ？」

??「こんなことって……」

??「最悪だ……」

逃走者たちに待ち受けるのは……

??「やばいよ……」

??「どこなの？」

??「ハンターが邪魔……」

様々なミッション……

??「!!!キャーッ!!!」

生き残る者は現れるのか・・・

そして・・・

??」「……さん、……付近にいます。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5092p/>

魔法先生ネギま！ & BAMBOO BLADE逃走中

2011年10月8日10時59分発行